

Childline Annual Report 2017



2017 チャイルドライン年次報告

目次

チャイルドラインとは	4
2016年 チャイルドライン事業	
チャイルドラインから見える子どもたちのいま	6
子どもの声	10
子どもからの感想・意見	11
チャイルドライン 全国フォーラム in 福島	12
オンライン相談	14
アウトリーチプログラム	18
2016年 アドヴォカシー事業	
子どもの声を社会に届ける	20
子どもへの広報	22
被災地支援の取り組み	24
チャイルドラインの広報活動	25
運営体制	
チャイルドライン実施団体の活動の状況	26
活動資金	27
チャイルドライン支援センターの会員数	28
ご支援・ご協力一覧	29
資料・統計データ	
全国各地のチャイルドライン	30
0120-99-7777 利用状況	32
利用者の性別・年齢	32
内容	33
ご提供できる資料・報告書の一覧	35

はじめに

チャイルドライン支援センター代表理事 神 仁



「全国フォーラム in 福島2016」にて

チャイルドライン支援センターが発足してから間もなく20年を迎えようとしています。この20年の間に全国のチャイルドラインは、子どもたちのさまざまな声やこころを聞き寄り添ってきました。今では年間20万件以上の電話が着信するようになっています。

また、一昨年からは、電話に加えて1対1のチャットシステムを使った「オンライン相談」も試行しています。子どもたちのコミュニケーションツールが電話からスマホ、とくにSNSへと変化するに伴い、チャイルドラインとしても子どもたちのニーズに対応することが喫緊の課題となってきています。

加えて、子どもたちの自尊感情・セルフエスティームを育み高めることが、いじめや自殺などの行動を抑止するはたらきになると考え、昨年からは自尊感情を高めるための「アウトリーチプログラム」も実施しています。

20年の間にはさまざまな試みがなされ、電話からオンライン、そしてアウトリーチへと子ども支援の活動の幅は広がりつつあります。しかしながら、形は多様に変化しようとも、私たちが目指すのは「子どもの権利条約(CRC)」で言うところの「子どもの最善の利益」を、この社会の中で担保することであり、子どもたちの「いのちの尊厳」を守ることです。

それは、この世に生まれたいのちが、他と比べることなくそれぞれ尊い存在であり、唯一無二であるという価値観を社会に根付かせるための活動であると言っても良いでしょう。それは当然ながら、個々の多様性が認められるということでもあります。

世界では現在、日本を含めて146カ国でチャイルドラインが運営されており、年間の着信・アクセス総数は3千万件近くにも上ります。世界の多くの仲間たちと共に、日本のチャイルドラインも、この世に生を受けたすべての子どもの幸福を願い実現するために、一步一步着実に歩を進めて行きたいと考えています。

はい! チャイルドラインです。



「チャイルドライン」は18歳以下の子どもの気持ちを聴く活動です。
 子どもたちは、行きどころのない思いやさびしさ、深刻な悩みで話をしてくれます。
 わたしたちはどんな話、気持ちでもまずは受けとめることから始めます。
 そして子どもをひとりの人間として尊重し、話を聴いていくなかで、できることを一緒に考えていきます。
 子どもは話をすることで気持ちを整理していき、
 自分への理解者がいると感じて解決のための次の1歩を踏み出すことができるのです。

ミッションと理念

「子どもが主体の、子どもの最善の利益を実現するために、電話による心の居場所をつくり、受けとめた声を基に子どもが生きやすい社会をつくる。」というミッションを掲げ、「子どもの権利条約」の理念・精神を基本として活動を行っています。特に第3条にある「子どもの最善の利益」を一番に考えています。（「子どもの権利条約」は1989年に国連で採択された国際条約で、日本は1994年に批准しています。）

わたしたちの願い

子どもの願いは何か、大人としてすべきことは何か。わたしたちは子どもの声に学び、一緒に考えていきたいと思えます。
 世の中全体でコミュニケーション力が低下しているとも言われますが、人は自分を受け止めてくれる相手、こころを開いて話せる相手を求めているように思えます。しっかり気持ちを受け止めることで、お互いの信頼を築くことができると信じています。
 わたしたちは、子どもの笑顔が増え、子どもの話に耳を傾ける大人が増えることを願っています。

社会的役割

大人の責任として、子どもの話を聴いたままにするのではなく、子どもたちの状況を社会に発信していくことで、子どもが生きやすい環境をつくっていきたくて考えています。そのため、子どもたちの声をデータとしてまとめることや、講演会などで“話を聴くこと”の大切さを社会に啓発する活動を重ねています。また、行政・企業・他団体とも連携して「子どもの最善の利益」が保障される社会をつくるために何が必要かを話し合い、協働していくことにも取り組んでいます。

これまでの歩み

- 1970年代 北欧で子どものためのホットライン活動が始まる。
- 1986年 イギリスでチャイルドラインが開設される。
（当時のイギリスでは虐待が社会問題となっていた。）
- 1998年 日本でチャイルドライン始まる。
- 1999年 チャイルドライン支援センター設立
- 2008年 全国統一番号フリーダイヤル運用開始
- 2016年 オンラインチャットでの相談の試行始まる
- 2017年6月30日現在
 全国40都道府県70団体がチャイルドラインの活動をしている
 世界ではチャイルドヘルプラインとして146ヶ所で活動が行われている。
 （CHI Child Helpline International 本部オランダ・アムステルダム）

2016年度活動の概要

通年	フリーダイヤルの実施（0120-99-7777）とデータの集積
随時	オンライン相談試行
随時	アウトリーチプログラム
随時	チャイルドライン活動への理解を求める企業訪問、渉外活動
随時	子どもたちへの広報活動
年4回	ニューズレターの発行
4月14日	熊本地震発生 被災地域の子どもの支援活動を検討開始
5月18日	文部科学省訪問
6月1日	「広がれボランティアの輪 連絡会議」総会
6月4日	通常総会
7月25日	2016チャイルドライン年次報告発行
8月29日	文部科学省訪問
10月22日～24日	全国フォーラム2016 in 福島を開催
10月23日	全国運営研修
11月10日	厚生労働省 虐待防止対策協議会
12月	エリア会議開催
2月4日	全国運営者会議
3月10日	厚生労働省 自殺防止対策事業ヒアリング
3月29日	チャイルドライン支援議員連盟総会・勉強会の開催



チャイルドラインから見える子どもたちのいま



<活動の現場から>

「はい、チャイルドラインです」

この言葉から今日子どもとのつながりが生まれます。

日々の活動の中で感じる子どもたちの状況についてお伝えします。

子どもと向き合う、大人がゆとりを持てる社会に

「お母さんが仕事でいないことが多い。」

弟妹が寂しがるから、つい“がまんしてよ!”って怒っちゃう。本当は私も寂しい。」

「親が仕事でいなくて寂しいから電話してみた」という声が少なからず届きます。自分のことを見てくれる人がいるのか、自分はここにいてもいいのか、そんな思いが伝わってきます。

長時間労働やダブルワークなど、あわただしい日々を送る中で、話を十分に聴いてもらっていないことが子どもたちのところに影を落としているように感じます。一方、塾通いなどのために一人で食事をとる「孤食」により、家族とのだらんの時間が取れない子どももいます。企業では時短勤務制度など労働環境の改善や子育てをしやすい環境の整備が進んできているほか、地域でも子ども食堂の取り組みが広がりつつありますが、まだまだ取り残されている子どもたちがいるのが実状です。

チャイルドラインにかかってくる、そんな孤独感や寂しさを抱えた子どもたちの話にじっと耳を傾けていると、次第に安心したような声に変わっていきます。忙しい毎日の中で、少しの時間、子どもの話をさえぎらずに最後まで聴くだけでも、子どもたちは「自分のことをちゃんと見ていてくれるんだ」と実感でき、孤独感を抱えずに済むのかもしれない。

失敗したら終わりと思い込んでいる子どもたち

「勉強の成績があがらない。不安でたまらない。」

周りが求めている自分を演じている。もういい子でいるのに疲れた。」

保護者や身近な大人から自分のありのままを受容されていない子どもは、自分の意思や考えを信じる事が出来ず、周りの意見や人の目を強く意識しながら生きています。しかし、子どもはいつか大人になり、自分の責任で生きていかなくてはなりません。私たち大人がすべきことは、子どもを大人の考えに従わせるのではなく、子ども自身が自分で選択し人生を切り開いていけるよう、子ども自身が決めたことを尊重し、その子の力を信じて、何かあれば自分たちは味方になるから大丈夫、と背中を手を添えることではないかと思うのです。

多様な生き方、価値観を

友だちがいないことを子どもはとても恐ろしいことと考えているようです。

「友だちは多くなければいけない」、そんな呪縛とも言える価値観に縛られている子どもがたくさんいると感じます。周りと同じであることを求める同調圧力が子どもたちの周りに存在し、近年は SNS の普及によりさらに高まっているようにも思えます。その同調圧力による疲れやストレスが、いじめの原因になっているとも言われています。

たとえばもし、「理解しあえる人間がいなくても、無理して他人に合わせなくてもいい」という価値観を伝える大人がいるだけで、子どもたちのところは軽くなるかもしれません。多様な価値観を互いに認め合い、自分で自分の生き方を肯定出来れば、より風通しの良い社会になると信じています。

インターネットとの付き合い方

「学校では普通に話せてると思ってたのに、LINE で悪口を言われてた。」

これっていじめですね。もう、学校に行きたくない。」

特に女子の人間関係は、話を聴きながら相関図を書く必要があると言われるほど以前から複雑なものでしたが、LINE などのコミュニケーションの複雑化、SNS の普及がそこに拍車をかけています。文字や画像（スタンプなど）だけのやり取りは大人であつてもすれ違いや誤解が生じやすく、適切に使いこなしていくにはコミュニケーション方法やリテラシーに関する教育が不可欠です。

○経済格差が教育格差に結びつく現状

「ちょっと風俗っぽいお店でバイトしている。高3で受験を控えているけど、母子家庭で下にも兄弟がいる。」

お母さんは一人でずっと働きづめで辛そう。だから、このバイトやめられない。」

家庭の事情により進学できないことの葛藤や悩みなど、チャイルドラインだからこそ打ち明けられる話なのだろうと思われれます。また経済的なハンデは学業だけでなく友だちとの付き合いや部活動などの体験機会の共有にも影響し、周囲から孤立していくおそれがあります。子どもたちが様々な可能性と選択肢を持って社会に巣立っていけるよう、経済格差が子どもの受けられる教育や機会の差とならないような社会設計が必要だと感じます。

○多様性ととも生きる

「病院で“発達障がい”って診断がついた。人と付き合えて言われて頑張ってきたけど

もう無理なくていいのかな、って思ってる。」

「同性の子が好きになった。勉強も手につかないくらい。」

自分は異常者なんだろうか。いつもその子のことをみてしまう。」

人間は誰もが一人として同じではなく元来多様な存在ですが、その個性のありようによって差別や偏見が生じています。以前よりも“発達障がい”や“LGBT”の存在が知られるようになった一方、多様性を受けとめあい、ともに生きるという考え方はまだまだ不十分なように思われます。

チャイルドラインは、子どもの状態を診断したり適切な処理を伝えるといった専門的な対応は出来ませんが、その子の感じている生きづらさに耳を傾けることで、抱えている葛藤や苦しさが少しでも和らいだり、気持ちに折り合いがつくように寄り添っていきたくと考えています。

私たちチャイルドラインは、子どもには問題に向き合い自己決定する力があると信じ、その力を発揮できるよう、子どもたちの気持ちに寄り添い、話を聴いています。しかしチャイルドラインができることには限りがあり、社会全体で子どものことを考えることが必要だと考えています。私たちの見てきた子どもの現状をお伝えすることが、子どもが生きやすい社会の実現の一助になることを願っています。

<統計データから>

年間着信数 20 万件

2016 年度も年間を通じてフリーダイヤルを実施し、全国で 209,243 件の電話を着信しました。1 日平均 583 件、1 時間あたり 117 件を受けていることとなります。子どもからアクセスがあったのは 563,948 件で、着信できたのはそのうちの 37.1% でした。まだ 4 割に至りませんが着信率は年々改善してきています。会話が成立したのは 58,686 件*で、着信全体の 28% 程度となっています。（☆大人および大人と思われる電話を除く）

2016 年度フリーダイヤル着信数

209,243 件

(1 日平均 583 件)

※ 12 月 29 日～1 月 3 日を除く 359 日

年度	2016 年度	2015 年度	2014 年度	2013 年度	2012 年度
着信率	37.1%	33.5%	33.5%	29.0%	26.1%

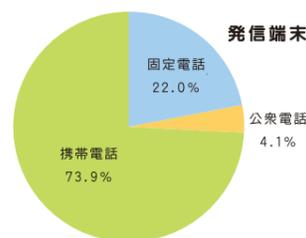
携帯電話からの利用が 74%

チャイルドラインにアクセスした子どもが利用した端末はスマートフォンを含む携帯電話が 73.9% で過去最多となりました。内閣府の調査*によると小学生の 50%、中学生の 63%、高校生の 97%、全体として 69% の子どもが携帯電話・スマートフォンを所有しており、チャイルドラインの電話もこうした世相を反映していると言えます。

(★平成 28 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査より)

一方、経済的な事情などにより携帯電話を持たない子どももいます。また固定電話の設置台数は年々減少しており、家庭に固定電話がない子どもも増えています。携帯を持たず、家庭にも電話がない、通信手段を持たない子どもの存在が気がか

りです。またスマートフォン利用者でもインターネット利用のみ契約している場合など、フリーダイヤルにアクセスできない場合があります。フリーダイヤルは公衆電話からも利用することが出来ますが、設置台数は年々減少しており、そのうえ通話中も周囲から見えるために利用しにくくなっています。子どもたちが容易に「つながることができる」環境を整えるためには、こうした社会情勢の課題にも取り組んでいく必要があります。



発信端末	2016 年度	2015 年度	2014 年度	2013 年度	2012 年度
携帯電話率	73.9%	71.7%	65.8%	66.1%	68.2%

「話を聴いてほしい」70%

子どもがチャイルドラインを利用した動機・理由（受け手ボランティアが感じ取ったものを統計化）は、7 割が「話を聴いてほしい」というものでした。男女間では女子の方がやや比率が高く、また男女とも年齢が上がるとともに上昇していく傾向が見られます。また「誰かとつながりたい」が 5% 程度と、人とつながっていることによる安心感を求めていることがわかります。「答えがほしい」は男女とも小学校高学年が最多となっています。

性別	全体	男子	女子	不明
話を聴いてほしい	70.0%	67.5%	73.3%	62.8%
答えが欲しい	17.2%	17.1%	17.3%	14.5%
誰かとつながりたい	4.7%	4.7%	4.5%	6.5%
お試し	5.2%	6.9%	2.8%	9.3%
社会資源情報を求める	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%
実際に動いて欲しい	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%
お礼	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%
苦情	0.2%	0.1%	0.2%	0.3%
その他	2.0%	3.0%	1.2%	6.0%

男子	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	不明	合計
話を聴いてほしい	69.0%	59.7%	56.1%	65.8%	72.4%	59.2%	67.5%
答えが欲しい	17.2%	18.9%	20.5%	19.5%	16.1%	13.7%	17.1%
誰かとつながりたい	1.7%	6.3%	3.4%	4.6%	4.5%	6.5%	4.7%
お試し	6.9%	12.7%	16.9%	7.3%	4.0%	11.0%	6.9%
社会資源情報を求める	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%
実際に動いて欲しい	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
チャイルドラインについて	0.0%	1.0%	0.7%	0.5%	0.4%	0.5%	0.5%
その他	5.2%	1.2%	2.2%	2.1%	2.3%	8.9%	3.0%

女子	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	不明	合計
話を聴いてほしい	67.2%	66.4%	68.1%	74.4%	78.5%	64.7%	73.3%
答えが欲しい	10.4%	21.4%	22.5%	18.0%	13.6%	13.9%	17.3%
誰かとつながりたい	6.0%	3.4%	2.6%	3.8%	5.6%	8.2%	4.5%
お試し	14.9%	6.5%	4.7%	2.0%	0.8%	5.9%	2.8%
社会資源情報を求める	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%
実際に動いて欲しい	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%
チャイルドラインについて	0.0%	0.9%	0.9%	0.3%	0.3%	1.8%	0.6%
その他	1.5%	1.3%	1.0%	1.1%	0.8%	4.9%	1.2%

いじめを受けている子どもが大人に求めるのは「話を聴くこと」

いじめ被害者の子どもが何を求めてチャイルドラインにアクセスしたかを集計したところ、最も多いのは「話を聴いてほしい」で、全体の比率とほとんど変わりませんでした。一方で傍観者の立場の場合、「答えがほしい」が 35.9% と他の項目と比べて突出しています。加害者の場合にも 23.3% と比較的高くなっています。

(被害者)		(傍観者)		(加害者)	
いじめ/被害	%	いじめ/傍観	%	いじめ/加害	%
話を聴いてほしい	73.0%	話を聴いてほしい	54.7%	話を聴いてほしい	67.5%
答えが欲しい	19.9%	答えが欲しい	35.9%	答えが欲しい	23.3%
誰かとつながりたい	2.0%	誰かとつながりたい	1.2%	誰かとつながりたい	0.8%
お試し	3.4%	お試し	6.3%	お試し	4.2%
社会資源情報を求める	0.2%	社会資源情報を求める	0.4%	社会資源情報を求める	0.0%
実際に動いて欲しい	0.1%	実際に動いて欲しい	0.4%	実際に動いて欲しい	0.0%
チャイルドラインについて	0.3%	チャイルドラインについて	0.4%	チャイルドラインについて	0.0%
その他	1.1%	その他	0.7%	その他	4.2%

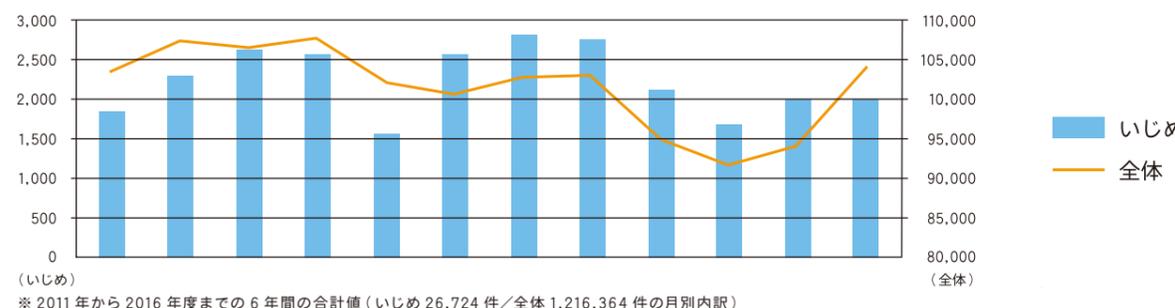
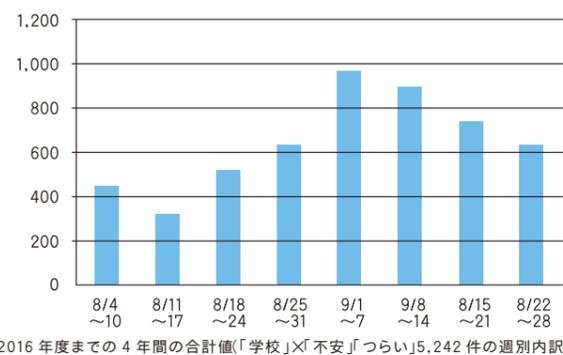
「死にたい」と訴える子どもが求めるのは「人とのつながり」

生きていたくないという訴えや、自傷行為に関する件数は 547 件に上りました。1 日に 1～2 回はかかっていることとなります。このような話を聴く精神的な負担は大きく、はじめて受ける場合には大きく動揺したり、今すぐにもいのちの危機を救わなければとの思いに駆られることもあります。しかし子どもが何を求めてチャイルドラインにアクセスしてきたのかを分析すると「誰かとつながりたい」が最も高くなっています。「死ぬほどつらい、消えてしまいたい」と訴えるころの奥に、誰かとつながりたいという思いがうかがわれるのです。

自死(自殺)念慮		自傷行為	
	%		%
話を聴いてほしい	67.3%	話を聴いてほしい	70.4%
答えが欲しい	3.5%	答えが欲しい	5.4%
誰かとつながりたい	24.9%	誰かとつながりたい	22.9%
お試し	1.6%	お試し	0.3%
社会資源情報を求める	0.0%	社会資源情報を求める	0.0%
実際に動いて欲しい	0.0%	実際に動いて欲しい	0.0%
チャイルドラインについて	0.0%	チャイルドラインについて	0.0%
その他	2.7%	その他	1.2%

夏休み明け周辺は子どもの不安が高まる

2015 年度の自殺対策白書（内閣府）では、過去 40 年間の統計から 9 月 1 日に子どもの自殺が最も多いことが報告されました。チャイルドラインでも、夏休み明けに向けては子どもの気持ちが不安定になり要注意の時期とされており、データとしても実証されています。休み前にいじめを受けていたり、クラスで孤立していたり、そうした背景を抱えた子どもが発した SOS をいかにキャッチするかが重要です。また 10 月から 11 月にかけてはいじめの件数が最も多くなっており、この時期は子どもたちの様子に注意が必要と思われます。





子どもの声



子どもからの感想・意見

学校で

- 登校班から放課後の学童保育までずっと一緒の子が、意地悪する。仲間がいてなぐったりもするんだ。(小3 男子)
- 友だちがいじめられて学校に来なくなっちゃった。実は相談されてたんだけど、自分がターゲットになるのが怖くてなにもできなかった。(小5 女子)
- 吹奏楽部において、もうすぐ大会もある。私がみんなの足を引っ張っているのはよくわかっているの。顧問の先生にもしょっちゅう注意されて練習が進まなくて、部員のみんなども陰で私の悪口を言っている。一生懸命やっているんだけど・・・。(中2 女子)
- 勉強の成績があがらない。不安でたまらない。周りが求めている自分を演じている。もういい子でいるのに疲れた。(高1 女子)
- 支援学級に通っている。最近みんなの視線が気になって教室に入りにくい。音も気になる。企業の社会体験学習があるが、怒られるんじゃないかと思うとパニックになる。(高2 男子)

家庭で

- 父と母が離婚することになった。明日届を出すそう。私はお母さんについていく。父の転職で毎日もめてたけど、まさか本当にバラバラになっちゃうとは思ってなかった。またみんな暮らせる日はくるのかなあ。もう無理なのかなあ。(中1 女子)
- お父さんもお母さんもスマホ依存だと思う。家にいる間中、スマホをいじってる。僕には勉強しろっていうのに。僕も使っているけどさ。(中2 男子)
- ちょっと風俗っぽいお店でバイトしている。高3で受験を控えているけど、母子家庭で下にも兄弟がいる。お母さんは一人ですと働きづめで辛そう。だから、このバイトやめられない。(高3 女子)
- 親から失敗作品とののしられている。兄と比べられると傷つく。なにをどうがんばればいいのかわからない。とにかく自分はダメな奴なんだろうな。兄と同じ高校には入れない。(中3 男子)
- お母さんが仕事でいないことが多い。弟妹が寂しがらるから、つい強い口調で「がまんしてよ!」って怒っちゃう。本当は私も寂しい。(小4 女子)

心のこと 体のこと

- 病院で摂食障害といわれている。トイレで吐いたら水道代だって高いんだから、といわれた。甘えさせてくれない。話も聞いてくれない。こんな私、いらないだろうな。(中2 女子)
- 最近の北朝鮮や地震のことを考えると不安でいてもたってもいられなくなって悲しくなる。不安が大きくなって抱えきれなくなるとチャイルドラインに電話して聞いてもらっている。(高1 男子)
- リスクがやめられない。リスクすると気持ちが落ち着く。でも、お母さんに「今度リスクしたら、お母さん死ぬから!」って言われた。(中3 女子)
- 病院で発達障害って診断がついた。勉強は好き。人と付き合えて言われて頑張ってきたけどもう無理じゃなくていいのかな、って思ってる。(中2 男子)

恋愛いろいろ

- 好きな子に告白しちゃった。そうしたら、その子も私のこと好きだった!! ドキドキが止まらない。うれしくて電話しちゃった。(中2 女子)
- 同性の子が好きになった。勉強も手につかないくらい。宇宙が一番好きくらい。自分は異常者なんだろうな。いつもその子のことをみても。(高1 女子)

ネットで

- ネットで知り合った彼に、顔と裸の写真を送ってしまった。でも、今、リアルな彼ができて別れたい。「もう連絡とらない」といったら怒ってしまった。拡散が怖い。(高2 女子)
- 学校では普通に話せてると思ってたのに、LINEで悪口を言われてた。これっていじめですよ。もう、学校に行きたくない。(中1 女子)
- ネットでアダルトの無料サイトに入っちゃって、うっかり入会しちゃったみたいで、多分退会できたと思うんだけど変なメールがたくさん来るようになった。お金もかかっちゃったみたいで、どうしたらいいんだろう。(中3 男子)



最初、上手く話せなくて切ろうと思った。でも戸惑ってる時、相手から「何で電話したの?」って聞かれたから思い切って打ち明けた。途中泣いてしまったけど、共感してくれて嬉しかった。(12歳女子)



スマホを持っていますが、あるプランで電話ができません。ライン電話からかけていいですか? もし出来るのなら、普段お金のかかる電話でも無料ですか?(15歳女子)



私は、親から叩かれたり、蹴られたりするのが虐待に当たるのかを相談しました。最初は、何から言えばいいのか心配だったけど、私が泣きながら言っても優しく相談に乗ってくださり話終えたらとてもすっきりしました。(12歳女子)



優しく電話に出てくれて、声を聞いた瞬間に泣き出してしまいました。泣いてしまえば早く話せなくてもずっと待っていてくれたのがすごく嬉しかったです。相槌をうちながら「辛かったよね」「頑張ったね」と声をかけてくれて涙が止まりませんでした。溜まっていたこと全て話せてスッキリしました。明日から頑張れそうです。本当にありがとうございました。(15歳女子)

不登校でしたが電話したら勇気付けられました!ありがとうございます。(13歳男子)



家庭崩壊状況の事自分の気持ちを言ったら私の気持ちを優先し大切にしていいたよ家族に気持ちを伝えようと支えてくれました 本当ありがとうございます(11歳女子)



いま、誰にも言えないすごく悩めることがあります。でも、高校生になるとバイトやら、勉強やらで21時を過ぎてしまって相談できません。もうすこし、受付終了時間を遅めてほしいです。(17歳女子)



過食症について相談しました。最初はこんなことで相談するなんて、恥ずかしかったけど、相談員さんが優しく話を聞いてくださって、相談してよかったと思いました。具体的な解決策を教えてください。自分の状態が良く分かってきました。これからは、焦らず、健康に気をつけて、生活していきたいし、過食症も克服したいです。相談に乗ってくださりありがとうございました。(18歳女子)



いつでも気軽に相談できるようにメール相談を常設して欲しいです。自分は電話で人と話すのが苦手だし、誰にも電話しているところを聞かれたり、見られたりしない環境がないです。(18歳女子)

チャイルドライン全国フォーラム in 福島



2016年10月22日から24日まで東日本大震災から5年半を経た
福島で全国フォーラムを開催しました。



過酷な環境の中で時を過ごしてきた子どもたちに思いを馳せながら、災害時の子ども支援について考えるフォーラムを開催しました。

基調講演では、ハワイでKids Hurt Too Hawaii を創設した子どものグリーフケアの専門家であるシンシア・ホワイトさんと伊藤ヒロさんをお招きして、グリーフとトラウマの違いやそのケアについて学びました。

続いて、大地震と津波、それに伴う東京電力福島原子力発電所の事故による被災者となった地域の高校生の視点で震災を伝えるDVD 作品を上映し、被災地の子どもたちの気持ちについて考えるパネルディスカッションを行いました。

2日目は分科会、3日目は福島県沿岸部被災地の子ども支援の現場を訪ねました。(詳細は「チャイルドライン全国フォーラム in 福島 報告書」をご参照ください。)

この国では地震だけでなく、さまざまな災害が起こりますが、子どもにとって、身近な人の死や離別が災害時だけのものではありません。いつでも起こりうる子どものグリーフやトラウマにわたしたちはどう向き合っていくのか。日頃から学びを深めていかなければと思いました。



10月22日(土) 会場: エスパル福島 5階ネクストホール 参加者 151名

- ・開会式
- ・基調講演シンシア・ホワイト「被災した子どものグリーフケア～今わたしたちにできること～」(通訳伊藤ヒロ)
- ・DVD 上映会 福島県相馬高校放送局制作「今伝えたいこと(仮)」ほか
- ・パネルディスカッション「震災から5年半、被災地の子ども支援を考える」

パネリスト: 成井香苗 (NPO 法人ハートフル未来を育む会理事長・臨床心理士)
鈴木綾 (チャイルドラインこおりやま副理事長)
渡部義弘 (元相馬高校放送局顧問)
相馬高校卒業生 (「今伝えたいこと(仮)」制作メンバー)
コメンテーター シンシア・ホワイト (Kids Hurt Too Hawaii 創設者)
モデレーター 神仁 (チャイルドライン支援センター代表理事)



10月23日(日) 会場: コラッセふくしま

- 分科会1 子どものトラウマ・グリーフケア** (参加者 29名)
講師: シンシア・ホワイト (Kids Hurt Too Hawaii 創設者) 通訳: 伊藤ヒロ
- 分科会2 子どもたちのダイバーシティ(多様性)** (参加者 20名)
～ジェンダーバイアス(偏見)からジェンダー・フリー(解放)への学び～
講師: 前川直哉 (ダイバーシティふくしま共同代表) 佐藤 翠 (ふくしまコミュニティスペースよりみちスタッフ)
ファシリテーター: 金沢幸枝 (チャイルドラインふくしまスタッフ) 安田弘子 (チャイルドラインふくしまスタッフ)
- 分科会3 子どもたちからの未来への提言(メッセージ)** (参加者 37名)
～子どもたちは、震災・福島第一原発事故後にふくしまをどう生きてきたのか?～
午前の部 (活動発表)
地方創生イノベーションスクール 2030 東北クラスター「福島市チーム」
(福島市立第二中学校 3名・福島市立岳陽中学校 2名)
福島県立相馬農業高等学校農業倶楽部 (10名)
相馬農業高等学校卒業生 (東京農業大学生 2名・社会人 1名)
午後の部 (ディスカッション: 子どもたちの提言をどう生かしていくか)
中鉢博之 (NPO 法人ピースふくしま常務理事)
金子由美子 (チャイルドライン支援センター理事・NPO 法人さいたまユースサポートネット学習支援教室代表)
田中哲 (チャイルドライン支援センター理事・東京都立小児総合医療センター副院長・児童精神科医)
野口まゆみ (チャイルドラインふくしま理事長・西口クリニック婦人科院長)
- 分科会4 持続可能な組織運営を目指して**
～マネジメントとファンドレイズ「クラウドファンディングの実践と可能性」～
～ボランティアのモチベーションアップ～
講師: 村上敏也 (チャイルドライン支援センター常務理事・県立広島大学大学院経営管理研究科准教授 博士「経営学」)
中村尊 (チャイルドライン支援センター理事・フリースクールクレイン・ハーバー代表)
- 分科会5 アウトリーチプログラム**
～自己肯定感を高めるためのプログラム～
講師: 高橋弘恵 (NPO 法人チャイルドラインあいち代表理事)
松江比佐子 (チャイルドライン支援センター常務理事)
関戸真紀 (チャイルドライン支援センター理事)
田野浩美 (チャイルドライン支援センター理事)
- 分科会6 オンライン相談の可能性**
～チャイルドラインで取り組んできた電話以外のツールの模索～
支援センターで行ったオンライン相談の試行を踏まえ、子どもたちのところに寄り添うツールについて考える
講師: 神 仁 (チャイルドライン支援センター代表理事)
水口良子 (チャイルドライン支援センター理事)
- 全体会**
司会: 野口まゆみ (チャイルドラインふくしま理事長・西口クリニック婦人科院長)
松江比佐子 (チャイルドライン支援センター常務理事)

*分科会4～6は、チャイルドライン関係者のみを対象とした「運営研修」として競輪の補助を受けて実施しました。

10月24日(月) 福島県沿岸部被災地スタディツアー

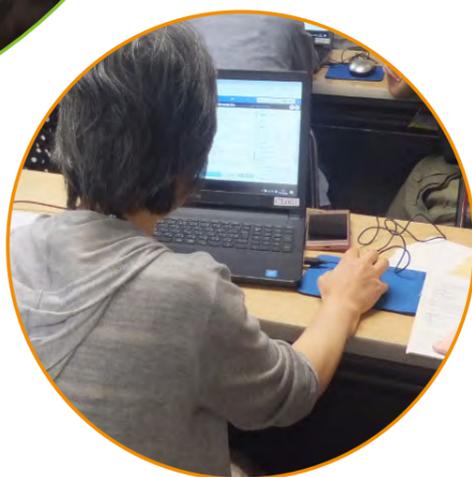
～原発周辺と子ども支援の現場を訪ねる～

パネリスト: 番場さち子 (ベテランママの会)
近藤能之 (みんな共和国)
古賀東彦 (公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)
モデレーター・車内講師: 山中努 (認定NPO 法人ジャパン・スラットフォーム)
プログラムコーディネーター: 社会福祉士 福島担当)



オンライン相談

チャイルドラインにかかってくる電話は、
 現在7割以上が携帯電話(スマートフォンを含む)になっています。
 子どもたちにとって身近になっているインターネットを使ったコミュニケーションツールについて、
 子どもが利用しやすい環境を作っていくためにも、
 2014年度に策定されたチャイルドライン中期目標「電話以外のツールを模索する」に基づき、
 オンライン相談の試行に取り組んでいます。



スマートフォンやインターネットの利用状況

内閣府の調査でも2015年時点で68.3%の子ども(高校生では96.7%)が携帯電話を所有しているとの結果が出ています。そしてスマートフォンによるインターネットの利用内容としてはコミュニケーションが83.4%と、多くの子どもがインターネットによるコミュニケーションを日常的に行っています。

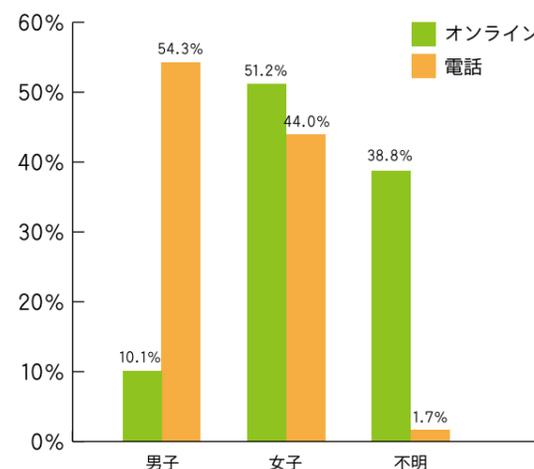
が53.5%に上りました(高校生では75.4%)。また東日本大震災の被災地からは仮設住宅では声が筒抜けになってしまうので電話をかけられない、あるいは携帯電話を使えるのは居間だけという家庭のルールがあり電話はかけられない、といった声もあり、メールなどインターネット上でのコミュニケーションツールが子どもから求められている状況にありました。さらに文字を通じたコミュニケーションであれば、これまでチャイルドラインを利用できなかった聴覚障害のある子どもにも機会を提供できるという面もあります。

子どもの声に答える

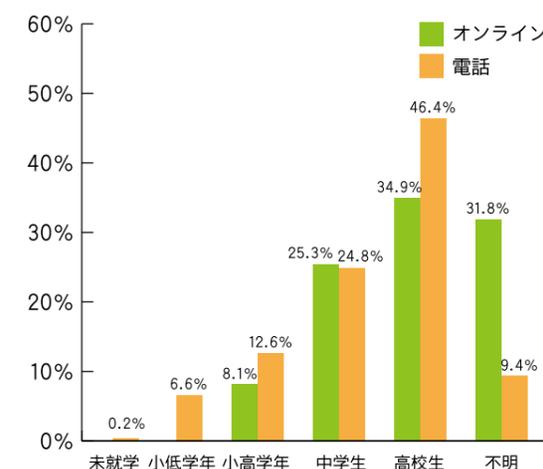
チャイルドラインが2013年度に行ったアンケート調査では、電話以外の方法があると良いと答えた子どもは48.6%、そのうちメールが良いと答えた子ども

電話との比較

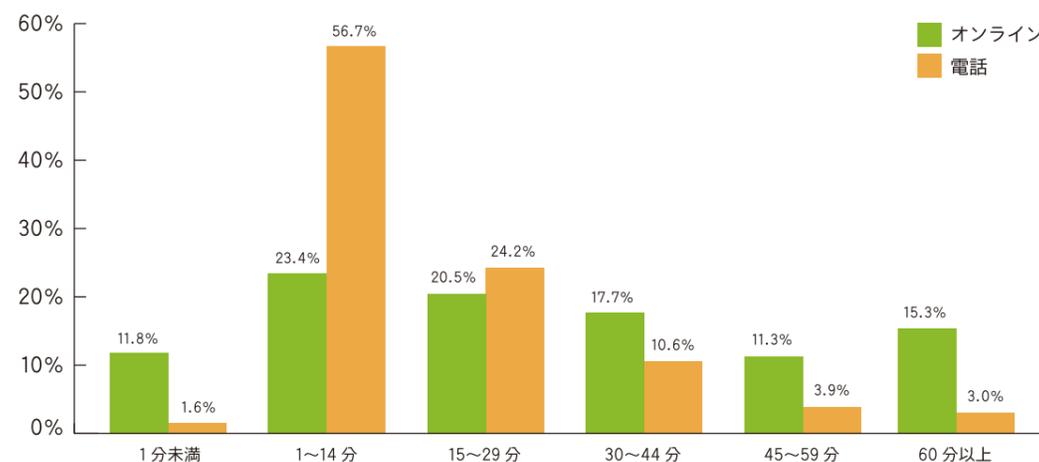
●性別



●年齢



●通話時間



480件のチャットに対応

相談ツールは「メール」「掲示板」「チャット」の中から検討し、まずは電話に近いコミュニケーションがとれる「チャット」を採用しており、これまで4回／36日間の試行に取り組みました。

■実施概要

1回目	2016年3月23日(木)～3月30日(水) 16時～21時 ※自殺対策強化月間
2回目	2016年8月29日(月)～9月9日(金) 16時～21時(土日休み) ※夏休み明け周辺、子どもの自殺が最も多くなる時期にあわせて
3回目	2016年11月23日(水祝)～11月30日(水) 6時～21時 ※虐待防止月間
4回目	2017年3月13日(月)～3月20日(月祝) 16時～21時 ※自殺対策強化月間

■実施結果 ※平均対応時間は会話成立時のもの

実施期間	1回目	2回目	3回目	4回目	計
のべ訪問数	698人	2,801人	1,449人	1,223人	6,169人
対応件数	199件	140件	177件	129件	645件
うち会話成立	105件	117件	129件	129件	480件
平均対応時間	32分	45分	44分	40分	40分

■4回の試行で見えたこと

①利用状況の比較(オンラインは4回分、電話は2016年度の上半期分と比較)

②子どもたちの丁寧な言葉づかい

特にチャットというと、子どもたちの言語表現が乱雑であったり、あるいは短いフレーズが応酬されるというイメージを持っていましたが、利用者の多くは自分の気持ちをどう文章で表現するか、ていねいに推敲しながらメッセージを送っている様子がうかがわれました。また相談にあたったボランティアからは、言葉表現に優れている子どもが学校で周りから浮いてしまっているのではないかと、という考察がありました。

③共感をどう示すか

チャイルドラインの基本姿勢である共感と傾聴の示し方について、実践の中で模索が続いています。電話では「あいづち」の打ち方ひとつでも、話を聴いていること、気持ちを理解しようとしている姿勢が相手に伝わりますが、文字情報でのあいづちではそうした情報が伝わりません。また相手の話した内容を繰り返すことは、音声上では聞いていることを示す動作となりますが、文字上ではそのような意図がかえって伝わりづらくなります。そのため電話以上に要約や促しの言葉を入れるといった対応が必要になっています。

ウェブコンテンツ「いまのキモチ」

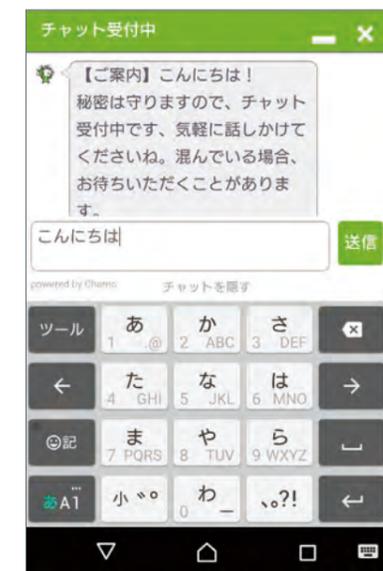
子どものアクセスに対応しきれず、チャット開始までの待ち時間が長時間化しているため、その間に気分転換などが出来るよう、ウェブサイト新たなコンテンツを制作しました。

「いまのキモチ」は、様々な表情が描かれたカードの中から、自分のいまの気持ちに近いカードをえらぶと、その状態を表す言葉が出てくる仕組みになっており、子どもが自分のこころの状態に目を向けること、そして感情を言語化することが意図されています。



今後の課題 一定期化と体制強化

これまで期間限定のキャンペーンとして取り組んできましたが、子どもにとってより利用しやすくなる定期的な開設について検討する必要があります。それと同時に、アクセスに対応しきれない状態を解消していくため、2017年度は拠点を増やすなどの取り組みを進めていきます。



アウトリーチプログラム

「アウトリーチ」とは福祉領域などで現場出張サービスとして用いられる言葉です。
 チャイルドラインの活動は子どもの話を聴き、
 気持ちを受けとめることと同時に、子どもが生きやすい社会をつくることを使命としています。
 これまで行ってきた電話や試行中のオンライン相談では
 子どもがアクセスしてくるのを待つのに対し、子どもたちのところに直接出向いて
 環境を改善するための支援の方法として考えだされたのが、このアウトリーチプログラムです。



このプログラムは、チャイルドラインが培ってきた「聴く」という手法を軸に、お互いが気持ちよくコミュニケーションできるようになるヒントを含んだワークショップを提供し、いじめなどの問題の予防につながることを目指しています。

聴いてみよう 話してみよう

【プログラムの概要】

形式：学級単位で実施を想定（数名～30名程度）／

体を動かすワークショップを含む子どものみ参加し、進行役以外の大人は参加しない

内容：①会場内を、言葉を発せず歩き回るワーク（身体的距離感を体感する）

②寸劇のシナリオを参加者の意見を採り入れて変化させるワーク“フォーラムシアター”
 （コミュニケーションの変化を体感する）

③一対一のペアになり、3分間相手の話をじっと聞き、感じたことを共有する
 （傾聴の基本姿勢を体感する）

プログラムの試験運用

2015年度に第1弾としてまとめたプログラム「聴いてみよう、話してみよう～わかりあうためのコミュニケーション」について、2016年度は試験運用しながら進行上の注意点などを洗い出し、フラッシュアップしていく1年となりました。

9月10日（土）	20代の若者にプログラムを体験してもらい、フィードバックを得た
10月23日（日）	チャイルドライン関係者にプログラムを紹介し、体験してもらった
3月19日（日）	東京都内の児童館にて、小学生・中学生に体験してもらい、フィードバックを得た

今後、全国各地のチャイルドライン実施団体と協働してプログラムを普及拡大していきます。

冊子制作

プログラムは学校の授業でも提供できるよう45分程度で構成されているため、多様性を尊重することやコミュニケーションのヒント、子どもに知ってもらいたい情報などプログラムの中では伝えきれないチャイルドラインからのメッセージをまとめた冊子を制作しました。今後、プログラムの提供後に子どもに配布していきます。



災害支援版の制作

4月、熊本と大分を中心に発生した震災によって、多くの子どもと家族が避難生活を余儀なくされました。この状況に対して、チャイルドラインが出来る支援について検討し、避難生活を送る子どもの心のケアを目的としたワークショッププログラムを制作しました。2011年の東日本大震災では、子どもが避難生活で自分の気持ちを抑えこんでしまう様子が多く見られたため、安心して気持ちを開放できることを目指しています。一方、無理に気持ちを引き出してしまうことによる二次被害を避けるよう、臨床心理士の助言をいただきました。

文部科学省との連携に向けて

文部科学省では子どもに豊かな教育を届けるため、地域や民間企業などと連携し「土曜学習応援団」を立ち上げました(<http://doyo2.mext.go.jp/>)。様々な出前授業プログラムを掲載し、学校関係者とプログラム提供先をつなぐポータルサイトの形式になっています。チャイルドラインのアウトリーチプログラムを今後展開していくにあたり、この取り組みとも連携できるように2016年8月に文部科学省の担当部署を訪れ情報掲載の可否について相談したところ、ぜひプログラムが完成したのちには掲載してほしいとの快諾をいただきました。プログラムの提供体制を整えた上で、連携団体として登録を行う予定です。

災害支援版

【プログラムの概要】

形式：色紙をつかった自己表現ワークショップ／6人1組程度のグループで行う子どものみ参加し、進行役以外の大人は参加しない

内容：①今の気持ちを表す色を、色紙の中から選択する

②その色を選んだ理由と、今の気持ちをグループで共有する

③気持ちを音や形で表現する

④画用紙に色紙をつかった作品をつくる

子どもの声を社会に届ける



子どもの最善の利益の実現のため、子どもたち自身の声を多々受け止めているチャイルドラインとして法整備の可能性についても検討を始めています。またアドボカシーPTを立ち上げ、チャイルドラインとしての社会調査のあり方、方向性について議論を重ねています。特に社会問題となっている子どもの貧困については、子どもの電話の中から貧困が背景にあるものを調査するためにデータベースを改良しました。

SDGsの実現に向けて

チャイルドライン支援議員連盟との協働

2017年3月29日、参議院議員会館において、議連事務局長 泉健太議員司会のもと、チャイルドライン支援議員連盟 総会が開催され、SDGs（持続可能な開発目標）の日本における子どもに関する取組みについて、関係各省庁へのヒアリングを行いました。



- 会長挨拶…………… 衆議院議員 河村 建夫
- チャイルドライン支援センター挨拶…………… 代表理事 神 仁
- SDGs（持続可能な開発目標）実施指針の概要説明…………… 外務省 国際協力局
- SDGsを達成指針する為の具体的施策のうち、子どもに関する項目の説明
 - 子どもの貧困対策の推進…………… 内閣府、厚生省、文科省
 - 幼児教育、初等中等教育、高等教育の充実、特別なニーズに対応した教育の推進…………… 文科省
 - 児童虐待防止対策の推進…………… 厚生労働省
- 質疑応答、意見交換

出席議員、神代表から下記の質問、要望がだされ、各省庁から回答をいただきました。

（質問）

17項目には、子どもという項目がないが、枠組みはどうか。

（外務省）

SDGs 17項目のあちこちに子どもという要素がちりばめられている。立体的に取り組むことで、子どもという多面的な存在を支援していく。

（質問）

生活保護世帯の大学進学について、世帯分離をせず進学できるよう制度見直しをお願いしたい。

（文科省）

文科省としては、奨学金制度で努力しており、厚生省の制度なので、ご意見を厚生省の担当につたえる。

（神）

SDGsのなかで、高等教育までと謳われているので、望む子どもたちが100%教育を受けられるようご尽力いただきたい。

（質問）

実行にあたり、いじめ・自殺、社会の構造的な暴力（ジェンダー・LGBTなど）も含め、子どもたちが個人として尊重され生きられるよう項目を盛り込んでいただきたい。

（外務省）

日本の優先的課題を考えて付表*が作られ、現在の指標には8つの優先課題と、各省庁の取り組みを盛り込んでいる、今後課題をどう盛り込んでいくか関係省庁と検討していく。

* www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_003822.html

（質問）

児童虐待の背景として、妊産婦の精神的な不安定感がある。妊産婦、乳幼児を持つ家庭への支援も願いたい。

（厚生労働省）

相談支援等を行う子育て包括支援センターの全国展開を目指した取り組みや産前産後期の支援の充実のため相談支援を行う産前産後サポート事業、退院直後母子心身のケアを行う産後ケア事業などの取り組みを行っている。平成29年度より産後鬱の予防、新生児の虐待予防を図る観点から健康診査の費用を助成するなど産後の母子への支援強化をしている。

支援議員

衆議院

伊東 良孝	自民党	北海道7区
和田 義明	自民党	北海道5区
武部 新	自民党	北海道12区
荒井 聰	民進党	比例北海道
江渡 聡徳	自民党	青森2区
遠藤 利明	自民党	山形1区
井上 義久	公明党	比例東北
郡 和子	民進党	比例東北
高橋 千鶴子	共産党	比例東北
升田 世喜男	民進党	比例東北
石崎 徹	自民党	新潟1区
齋藤 洋明	自民党	新潟3区
金子 めぐみ	自民党	新潟4区
馳 浩	自民党	石川1区
佐々木 紀	自民党	石川2区
漆原 良夫	公明党	比例北陸信越
大島 章宏	民進党	茨城5区
船田 元	自民党	栃木1区
枝野 幸男	民進党	埼玉5区
山口 泰明	自民党	埼玉10区
野中 厚	自民党	埼玉12区
大島 敦	民進党	比例北関東
興水 恵一	公明党	比例北関東
武正 公一	民進党	比例北関東
永岡 桂子	自民党	比例北関東
菅原 一秀	自民党	東京9区
柿沢 未途	民進党	東京15区
赤枝 恒雄	自民党	比例東京
高木 美智代	公明党	比例東京
初鹿 明博	民進党	比例東京
松原 仁	民進党	比例東京

田嶋 要	民進党	千葉1区
松野 博一	自民党	千葉3区
阿部 知子	民進党	比例南関東
富田 茂之	公明党	比例南関東
畑野 君枝	共産党	比例南関東
古屋 範子	公明党	比例南関東
野田 聖子	自民党	岐阜1区
上川 陽子	自民党	静岡1区
渡辺 周	民進党	静岡6区
工藤 彰三	自民党	愛知4区
青山 周平	自民党	愛知12区
中川 正春	民進党	三重2区
中根 康浩	民進党	比例東海
大岡 敏孝	自民党	滋賀1区
泉 健太	民進党	京都3区
谷垣 禎一	自民党	京都5区
山井 和則	民進党	京都6区
左藤 章	自民党	大阪2区
藤井 比早之	自民党	兵庫4区
浮島 智子	公明党	比例近畿
宮本 岳志	共産党	比例近畿
岸田 文雄	自民党	広島1区
河村 建夫	自民党	山口3区
福山 守	自民党	徳島1区
後藤田 正純	自民党	徳島3区
平井 たくや	自民党	香川1区
富岡 勉	自民党	長崎1区
北村 誠吾	自民党	長崎4区
坂本 哲志	自民党	熊本3区
衛藤 征士郎	自民党	大分2区
原口 一博	民進党	比例九州

参議院

田名部 匡代	民進党	青森
愛知 治郎	自民党	宮城
櫻井 充	民進党	宮城
藤田 幸久	民進党	茨城
上野 通子	自民党	栃木
杉尾 秀哉	民進党	長野
羽田 雄一郎	民進党	長野
吉田 博美	自民党	長野
小西 洋之	民進党	千葉
小川 敏夫	民進党	東京
中川 雅治	自民党	東京
蓮 舫	民進党	東京
福山 哲郎	民進党	京都
松下 新平	自民党	宮崎
糸数 慶子	無所属	沖縄
今井 絵理子	自民党	比例全国
神本 美恵子	民進党	比例全国
そのだ 修光	自民党	比例全国
田村 智子	共産党	比例全国
福島 瑞穂	社民党	比例全国

■役員体制（敬称略）

会長	河村 建夫（自民党）	幹事長	馳 浩（自民党）
副会長	羽田雄一郎（民進党）	幹事長代理	浮島 智子（公明党）
幹事	岸田 文雄（自民党）	幹事	田嶋 要（民進党）
	高橋千鶴子（共産党）		後藤田正純（自民党）
事務局長	泉 健太（民進党）		漆原 良夫（公明党）
副事務局長	小西 洋之（民進党）		阿部 知子（民進党）

SDGsとは

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは人間、地球の繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダをもとに、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くすことになっています。

子どもへの広報

チャイルドラインは現在40の都道府県に活動を行っている実施団体があります。

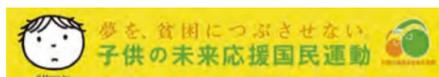
子どもたちへの広報は各実施団体から教育委員会などへ協力を依頼し、学校を通じて番号カードを配布する形が主流となっています。

実施団体のない7つの空白県(山形、茨城、兵庫、香川、佐賀、熊本、沖縄)の子どもたちには、チャイルドラインの電話番号を知らせるために、チャイルドライン支援センターより広報を行いました。

※日本財団子どもの未来応援基金の支援を受け実施



空白県の子どもたちにカードを届けました。



チャイルドラインの電話番号を子どもたちに届けるため、学校などを通じてカードの配布やポスターの掲示を行っています。

■ カード(空白県広報用)



【キャラクター版】

【中高生版】

■ ポスター



【4つの約束版】

【女子高生版】

■ ポスター



【キャラクター版】

【傘の少女版】

■ ポスター



【高橋大輔さんご協力で作成しているポスター2種類】

空白県の子ども人口

7県に住む小学生・中学生・高校生に相当する7歳～18歳の人口は約166万人にのぼります。(2015年度国勢調査結果より)

県名	子ども人口(7歳～18歳)
山形県	120,554人
茨城県	321,842人
兵庫県	613,975人
香川県	106,251人
佐賀県	100,491人
熊本県	201,490人
沖縄県	197,923人
計	1,662,526人

2016年度の配布活動

2016年度は山形県(1月～2月)、茨城県(3月)、兵庫県神戸市(9月)、熊本県(12月)の約80万人分のカードを配布しました。発送作業には東京近郊のチャイルドライン実施団体からも協力をいただきました。

企業との協働

カードの発送作業は、ご支援をいただいている企業様との協働によって行われました。社内の会議室等をお借りし、就業時間内のほか昼休みや終業後などに社員の皆様にボランティア活動としてご参加いただきました。準備段階から社会貢献担当部署の方が窓口になってくださり、社員の皆様へのご案内や会場のご手配など、様々な形での協力をいただいています。当日は作業とあわせてチャイルドラインの紹介や、活動の状況をお伝えしています。

協働いただいた企業	参加者数	日時	配布地域
東京海上日動株式会社	① 60名 ② 56名	① 9月20日(水) ② 2月20日(水)	① 神戸市(161,000枚) ② 茨城県(240,000枚)
東京海上アセットマネジメント株式会社	計150名	12月8日(木)、13日(火)	熊本県(96,000枚)
東京海上ビジネスサポート株式会社	計100名	12月12日(月)～15日(木)	熊本市(85,000枚)
三和グループ社会貢献倶楽部	10名	1月26日(木)	山形県(46,000枚)

【協働の流れ】当日の作業時間は30分～1時間30分程度

チャイルドライン
<ul style="list-style-type: none"> 学校別の封筒を用意 配布するカード、書類の作成 梱包資材、作業備品の手配 発送業者への手配、伝票作成 当日の作業準備、作業内容のレクチャー 活動紹介ミニ講演
企業様
<ul style="list-style-type: none"> 日程調整、作業会場のご手配 社員の皆様へのご案内 学校ごとに必要な枚数のカードを数える作業 同封書類・カードの封入 発送先別の梱包



被災地支援の取り組み

2016年4月14日熊本地震発生

理事2名が現地の避難所、教育委員会を訪問

子どもたちの状況調査と支援のあり方について九州地区のチャイルドラインと検討した。

被災地支援の呼びかけ

全国の実施団体より寄付 真如苑様からのご寄付

緊急に子どもたちに配ったカード

25万枚

ポスター 150枚(各避難所1枚)

☆配布にあたり、JVOAD様にご協力いただきました。



九州地区のチャイルドラインの取り組み

「チャイルドライン九州フォーラム in くまもと」開催

被災地の子どもに寄り添って ～いま ここから～ 2016年11月27日

・「くまモン」入りカードを作成し、子供への広報を行った。

・「子どもの自殺予防24時間ホットライン」

4月に熊本地震、6月には大雨の被害もあり、夏休み明けの子どもの自殺が多いとの発表を受けキャンペーンを行った。(8月31日16時から9月1日21時まで)

パブリシティ

テレビ

フジテレビ「みんなのニュース」	5月10日	品川区の中学生自殺について(代表コメント)
NHK ハートネットTV	8月4日	ステッスファミリー特集で相談先紹介
TBS 報道特集	9月3日	特集 子供たちの“心の居場所”

新聞・雑誌

媒体名	日付	タイトル・見出し等
日テレ NEWS24	4月5日	休み明けに急増「子どもの自殺」を防ぐには
よみうり中高生新聞	4月8日	「いじめ」一人で悩まないで
熊本日日新聞	5月4日	生活関連情報
読売新聞	7月22日	自殺のサイン見逃さない…長期休暇明けに増加
北海道新聞	8月14日	子どもの自殺防げ 29日からチャット相談
カトリック新聞	8月14日	「こころの居場所」求めて
不登校新聞	8月15日	9月1日自殺対策、全国各地で5年連続で最多 人間関係が悩み
ニュースサイト「リセマム」	8月25日	夏休み明けの自殺に注意、電話やネットで相談を
東京新聞	8月28日	もうすぐ新学期 学校つらい子へ「大丈夫」 悩み相談を電話やチャットで
佐賀新聞	8月28日	夏休み明け、悩み相談して
産経新聞	8月29日	夏休み明け前後に増える子供の自殺 微妙な変化見逃さず相談の扉広げて
西日本新聞	8月29日	夏休み明け子どもの自殺増
毎日新聞(西部)	8月29日	自分の命、守ろう 子どもの自殺、9月1日に突出 NPOが駆け込み居場所
朝日新聞	8月30日	夏休み明け SOS気づいて
朝日新聞 夕刊	8月31日	学校以外にも居場所あるよ
読売新聞	8月31日	夏休み明け 自殺防ぐには
南日本新聞	8月31日	社説「子どもの自殺」だれかに弱音を吐いて
毎日新聞(西部)	3月13日	熊本県内から相談急増
少年写真新聞社 心の健康ニュース	5月号	子どものSOSを受け止めるための「聴く」という手立て
月刊リベラルタイム	5月号	田代沙織のここが聞きたい!
月間福祉	6月号	心の叫びを受けとめる

書籍・刊行物

弘文堂 セクシャル・マイノリティQ&A	相談先紹介
進研ゼミiPad学習設定ガイド「インターネットマナー」	相談先紹介
文部科学省 ケータイ&スマホ、正しく利用できていますか?(パンフレット)	相談先紹介
国民生活センター 暮らしの豆知識	相談先紹介
東京都保健福祉局 若年層向け相談窓口一覧(リーフレット)	相談先紹介

インターネット

文部科学省 子供のSOSの相談窓口	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm
東京都保健福祉局 東京都こことあのちのほっとナビ ～ここナビ～	http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kokonavi/

※ JVOAD = 特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

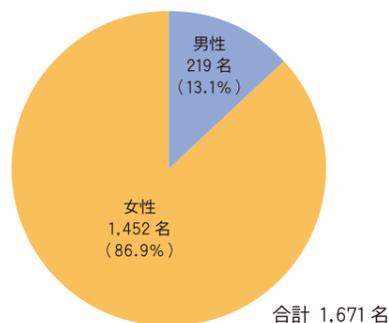
チャイルドライン実施団体の活動の状況

(全国 70 の実施団体にアンケート調査を実施)

ボランティア数

ボランティアは全国で 1,907 名

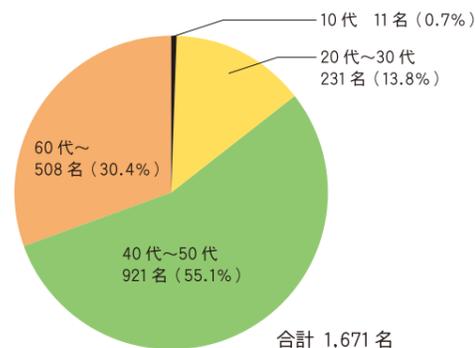
2017年4月時点で、子どもの話に耳を傾ける「受け手」は1,707名、受け手のケアを担う「支え手」は556名(うち受け手との兼任356名)で、活動に参加するボランティアは計1,907名となっています。



女性が 87%、年齢は 40～50 代が半数以上

40代～50代のボランティアが多く活躍しています。

(※1,907名のうち、未回答の236名を覗く)



受け手は減っている？

受け手ボランティアの人数について過去の調査と比較した場合、2012年度は1,806名だったのに対して、2017年度は1,707名と、99名減少していることがわかりました。ただ、70団体ごとの内訳で見ると、同数または増加が35団体、減少が35団体と、団体

によっても傾向は異なっています。さらに、一人あたりの活動への参加時間などにも左右されるため、子どものニーズに対して十分な体制ではなく、ボランティアの養成は全国的な課題です。

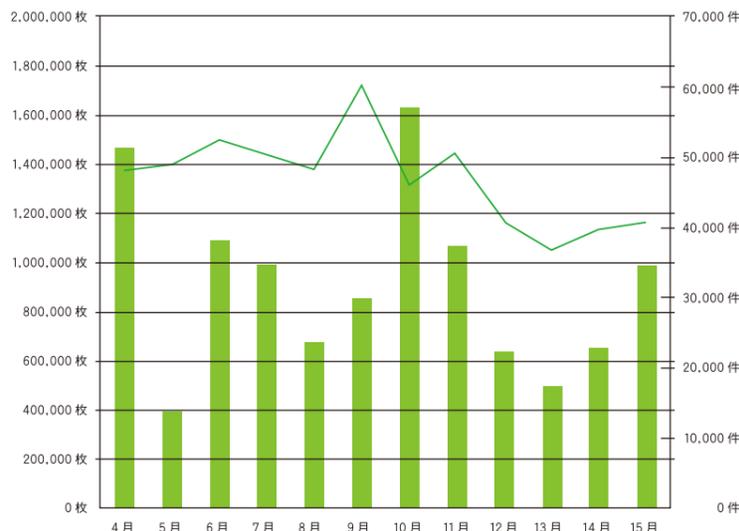
子どもへの広報(カード配布)

カード配布枚数は 1,073 万枚

チャイルドラインでは「すべての子どもがチャイルドラインを知っている状態」を目指して、全国各地で広報に取り組んでいます。全国の小学校、中学校、高校などの在学者数は1,338万人おり、2016年度に全国のチャイルドラインが配布したカード枚数は1,073万枚と、80.2%に相当します。

(実際には年2回以上配布する地域もあるため、参考数値)

・月別カード配布枚数と電話の発信数



・都道府県別カード配布状況

都道府県	カード配布枚数	子ども人口	カード枚数/子ども人口比	2016年度発信数	人口あたりの発信数
北海道	430,000枚	518,445名	82.9%	22,413件	4.3%
青森県	36,555枚	134,465名	27.2%	3,799件	2.8%
岩手県	143,712枚	132,874名	108.2%	14,880件	11.2%
宮城県	0枚	245,968名	0.0%	8,228件	3.3%
秋田県	100,000枚	96,469名	103.7%	3,289件	3.4%
山形県	135,000枚	118,092名	114.3%	8,457件	7.2%
福島県	245,000枚	202,555名	121.0%	9,013件	4.4%
茨城県	369,000枚	318,359名	115.9%	9,156件	2.9%
栃木県	220,000枚	215,967名	101.9%	4,771件	2.2%
群馬県	180,000枚	216,585名	83.1%	7,819件	3.6%
埼玉県	810,000枚	753,603名	107.5%	43,431件	5.8%
千葉県	120,000枚	641,347名	18.7%	16,008件	2.5%
東京都	622,998枚	1,244,863名	50.0%	66,091件	5.3%
神奈川県	1,736,920枚	917,111名	189.4%	30,039件	3.3%
新潟県	0枚	236,527名	0.0%	4,518件	1.9%
富山県	130,000枚	112,354名	115.7%	5,966件	5.3%
石川県	150,000枚	126,744名	118.3%	8,229件	6.5%
福井県	50,000枚	89,486名	55.9%	5,371件	6.0%
山梨県	110,000枚	92,302名	119.2%	5,460件	5.9%
長野県	271,000枚	233,356名	116.1%	6,455件	2.8%
岐阜県	197,000枚	228,436名	86.2%	6,287件	2.8%
静岡県	130,000枚	404,423名	32.1%	16,315件	4.0%
愛知県	510,000枚	837,841名	60.9%	70,510件	8.4%
三重県	687,000枚	199,928名	343.6%	11,883件	5.9%
滋賀県	28,000枚	167,324名	16.7%	7,221件	4.3%
京都府	200枚	274,597名	0.1%	5,860件	2.1%
大阪府	266,584枚	928,789名	28.7%	37,537件	4.0%
兵庫県	161,000枚	598,584名	26.9%	15,666件	2.6%
奈良県	14,000枚	149,326名	9.4%	1,498件	1.0%
和歌山県	2,000枚	103,582名	1.9%	9,629件	9.3%
鳥取県	80,000枚	61,909名	129.2%	2,945件	4.8%
島根県	160,000枚	73,752名	216.9%	2,166件	2.9%
岡山県	98,500枚	214,282名	46.0%	5,390件	2.5%
広島県	380,600枚	306,896名	124.0%	11,412件	3.7%
山口県	196,630枚	143,164名	137.3%	1,271件	0.9%
徳島県	84,000枚	76,792名	109.4%	2,184件	2.8%
香川県	0枚	107,660名	0.0%	745件	0.7%
愛媛県	154,000枚	146,553名	105.1%	1,267件	0.9%
高知県	100,000枚	73,303名	136.4%	4,095件	5.6%
福岡県	450,000枚	554,146名	81.2%	16,698件	3.0%
佐賀県	0枚	98,935名	0.0%	3,495件	3.5%
長崎県	140,000枚	152,159名	92.0%	10,233件	6.7%
熊本県	501,000枚	198,080名	252.9%	19,342件	9.8%
大分県	280,000枚	124,472名	225.0%	4,622件	3.7%
宮崎県	134,345枚	126,600名	106.1%	6,436件	5.1%
鹿児島県	120,000枚	186,724名	64.3%	4,437件	2.4%
沖縄県	0枚	198,108名	0.0%	1,411件	0.7%
合計	10,735,044枚	13,383,837名	80.2%	563,948件	4.2%

活動資金

全国の年間支出額は約 1 億円

2016年度1年間の事業支出額は合計102,441,571円でした。※2団体回答なし

チャイルドライン支援センターとあわせると、約1億6千万円がチャイルドラインの活動全体にかかる費用となっています。また内訳では、年間支出100万円以上の団体が30団体ある一方、50万円未満で活動するところが24団体あります。

年間支出	団体数	比率
1000万円以上	1団体	1.4%
500～999万円	1団体	1.4%
250～499万円	4団体	5.7%
100～249万円	24団体	34.3%
50～99万円	14団体	20.0%
50万円未満	24団体	34.3%
回答無し	2団体	2.9%

全国のチャイルドラインが1年間にいただいたご寄付は計41,351,919円。日本中の多くの個人・団体から活動を支えていただいています。

寄付金	団体数	比率
500～999万円	1団体	1.4%
250～499万円	1団体	1.4%
100～249万円	12団体	17.2%
50～99万円	9団体	12.9%
10～49万円	26団体	37.1%
1～9万円	10団体	14.3%
1万円未満	5団体	7.1%
回答無し	6団体	8.6%

自治体など行政機関からの支援を受けているところは30団体あり(計25,350,756円)、チャイルドラインが長年の蓄積により信頼される活動となっていることがうかがえます。

公的支援	団体数	比率
500～999万円	1団体	1.4%
250～499万円	0団体	0.0%
100～249万円	6団体	8.6%
50～99万円	6団体	8.6%
10～49万円	12団体	17.2%
10万円未満	5団体	7.1%
なし	40団体	57.1%

チャイルドライン支援センターの会員数 (2017年3月31日現在)

正会員：個人46名 団体73名
 支援会員：個人30名 団体3名

組織体制

2017年度 役員

■代表理事
 神 仁 公益財団法人 全国青少年教化協議会主幹／
 Child Helpline International アジア太平洋地域
 初代代表

■常務理事
 (チャイルドライン事業)
 松江比佐子 認定NPO法人チャイルドラインとちぎ理事長
 (アドヴォカシー事業)
 村上敏也 県立広島大学大学院経営管理研究科
 准教授 博士(経営学)

■理事
 家本賢太郎 株式会社クララオンライン 代表取締役社長
 NPO法人タイガーマスク基金 監事
 金子由美子 NPO法人さいたまユースサポートネット
 学習支援教室責任者
 関戸真紀 いずみ子どもAID代表
 田中 哲 東京都立小児総合医療センター・副院長
 精神科専門医(日本精神神経学会)
 田野浩美 せたがやチャイルドライン 支え手・運営委員
 中村 尊 NPO法人フリースクール 全国ネットワーク理事
 チャイルドライン・ながさき共同代表
 水口 良子 認定NPO法人チャイルドラインほっかいどう理事

■監事
 児玉勇二 弁護士
 梅澤元彦 社団法人教育クラウド協会理事／
 株式会社ムーンファクトリー代表取締役社長

○アドバイザー(敬称略)
 清川輝基 NPO法人子どもとメディア代表理事
 内海裕美 吉村小児科院長／
 公益社団法人日本小児科医会「子どもの心」
 対策部担当常任理事
 喜多明人 早稲田大学教授／
 NPO法人子どもの権利条約総合研究所顧問
 坪井節子 弁護士／
 社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事長

活動計算書 (2016年4月1日～2017年3月31日)

経常収益	(単位:円)
受取会費	2,390,000
受取寄付金	13,931,760
受取助成金	11,273,397
受取補助金	22,967,821
事業収益	
協賛金	2,660,083
資料代	4,465,374
参加費	474,000
物販	4,900
その他の収益	10,002
経常収益 計	58,177,337

経常費用	(単位:円)
事業費	
人件費	6,318,165
その他経費	
チャイルドライン事業	
全国統一番号フリーダイヤル	22,616,998
オンライン相談の試行	5,719,290
アウトリーチプログラム	1,165,781
全国フォーラム	3,167,555
事業運営費	1,582,401
アドヴォカシー事業	
子ども広報	2,984,092
空白県広報	1,193,152
災害支援	164,648
社会発信	967,861
事業運営費	1,369,547
事業費 計	47,249,490
管理費	
人件費	3,457,118
その他経費	2,488,319
管理費 計	5,945,437
経常費用 計	53,194,927

●寄付・協賛
 日本電信電話株式会社
 ソフトバンク株式会社
 株式会社NTTドコモ
 KDDI株式会社
 MS&AD インシュアランスグループホールディングス MS & AD ゆにぞんスマイルクラス
 かけはし信託愛の基金(三菱UFJ信託銀行)
 東京海上日動火災保険株式会社(東京海上Share Happiness倶楽部)
 東京海上ビジネスサポート株式会社
 三和グループホールディングス株式会社(三和グループ社会貢献倶楽部)
 宗教法人 真如苑
 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団
 株式会社ケイ・オステイコム
 一般社団法人ほのほの運動協議会
 チャイルドライン支援議員連盟
 公益財団法人全国青少年教化協議会
 モルガン・スタンレー MUFJ証券株式会社 債券統括本部
 若松測量設計株式会社
 株式会社 佐藤建設
 株式会社おそうじ革命
 シクミオ株式会社
 株式会社ラングランズ
 リアルネル有限公司
 謹かのサンタ事務局
 日本石材産業協会
 チャイルドラインうさぎのみみ
 南国サンタのおくりものチャリティ
 株式会社ティ・エフ・エフ (アンケータ募金)
 リンベル株式会社 (カタログギフト)
 Gooddo株式会社 (クリック募金)

●寄付「チャイルドライン全国フォーラム2016in 福島」
 週刊郡山社ザ・ウィークリー
 あんどうこどもクリニック(医療法人裕晶会)
 株式会社 晋家経営センター
 合同会社 地球と家族を考える会
 株式会社 フロダクト・ワン
 桜井産婦人科医院
 国際ソロスチミスト原町 会長 塩谷美津江
 村山医院
 医療法人 ころさきこどもクリニック
 福島キヤノン株式会社
 有限会社 郡山北部センター
 有限会社 佐平
 株式会社郡山南部佐藤新聞店
 有限会社毎日民報郡山中央センター
 高齢社会をよくする女性の会 郡山
 特定非営利活動法人さいたまチャイルドライン有志
 特定非営利活動法人チャイルドラインさっぽろ
 特定非営利活動法人チャイルドラインさっぽろ有志
 曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室
 曹洞宗福島県青年会
 光明寺
 大統寺
 原田雄(朗読集団 原田雄とその仲間たち)
 株式会社 三門印刷所

<広告協賛>「チャイルドライン全国フォーラム2016in 福島」
 アトリエ松江様
 株式会社環境公害分析センター様
 カルチャーボランティアサークルことのは
 ロマリングクリニック
 株式会社郡山南部佐藤新聞店
 (有)毎日民報郡山中央センター
 NPO法人さいたまチャイルドライン
 医療法人西口クリニック婦人科
 全国曹洞宗青年会
 NPO法人チャイルドラインみやぎ
 有限会社郡山北部販売センター
 NPO法人ふくしまユニバーサルデザイン
 チャイルドラインふくしま
 株式会社テレビユー福島
 有限会社 苑
 株式会社ケンオリ
 株式会社いわき
 山本 祐司
 有限会社 考学舎
 福田こどもクリニック
 株式会社渡辺有規建築企画事務所
 優希シンシアティ株式会社
 エクシース株式会社
 森田小児科医院
 NPO法人子ども劇場千葉県センター
 福島テレビ株式会社
 坪井病院
 チャイルドライン支援議員連盟
 塚田歯科医院
 NPO法人ビーンズふくしま
 チャイルドラインこおりやま
 公益財団法人 全国青少年教化協議会
 郡山コミュニティ放送
 福島民友新聞社
 福島民報社
 医療法人ABCクリニック新妻産婦人科

●補助
 厚生労働省「自殺防止対策事業」

●助成
 公益財団法人JKA「競輪補助事業」
 日本労働組合総連合会「連合・愛のキャンパ」
 積水ハウス株式会社
 積水ハウスマッチングプログラムの会
 日本財団「子供の未来応援基金」

●後援「2016チャイルドライン全国キャンペーン」
 内閣府
 文部科学省
 厚生労働省
 総務省
 チャイルドライン支援議員連盟
 社会福祉法人全国社会福祉協議会
 公益社団法人日本小児科医会
 公益社団法人日本医師会
 ●後援「チャイルドライン全国フォーラム2016in 福島」
 内閣府
 文部科学省
 チャイルドライン支援議員連盟
 公益社団法人日本小児科医会
 福島県
 福島県教育委員会
 福島市
 福島市教育委員会
 郡山市
 郡山市教育委員会
 朝日新聞福島総局
 毎日新聞福島支局
 読売新聞東京本社福島支局
 産経新聞福島支局
 福島民報社
 福島民友新聞社
 福島テレビ
 福島中央テレビ
 テレビユー福島
 福島放送
 ラジオ福島
 ふくしまFM
 FMボコ
 福島リビング新聞社
 週刊郡山社ザ・ウィークリー

●協力
 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
 株式会社 博報堂
 株式会社ピーアンドビービューロー
 株式会社 スランニング・ヴィカードデザイン
 公益財団法人いわさきひろ記念事業団
 公益社団法人日本小児科医会 広報
 一般財団法人児童健全育成推進財団
 株式会社三門印刷所 印刷物全般
 有限会社萌文社/イラストレーター 前田雄一郎
 ツナガルラボ
 有限会社トランスプロジェクト
 株式会社チャモ
 有限会社考学舎
 クリックテック・ジャパン株式会社
 佐藤経営税務会計事務所
 雨宮国際特許事務所
 お茶の水女子大学

<災害支援>
 熊本県教育委員会
 熊本市教育委員会

<空白県広報>
 山形県教育委員会
 茨城県教育委員会
 神戸市教育委員会
 東京海上日動火災保険株式会社(東京海上Share Happiness倶楽部)社員の皆様
 東京海上アセットマネジメント株式会社 社員の皆様
 東京海上ビジネスサポート株式会社 社員の皆様
 三和グループホールディングス株式会社(三和グループ社会貢献倶楽部) 社員の皆様

<全国フォーラム>
 あしなが育英会

<アウトリーチプログラム>
 劇団CAN 青芸 浅野 佳砂音
 臨床心理士 久保 千晶

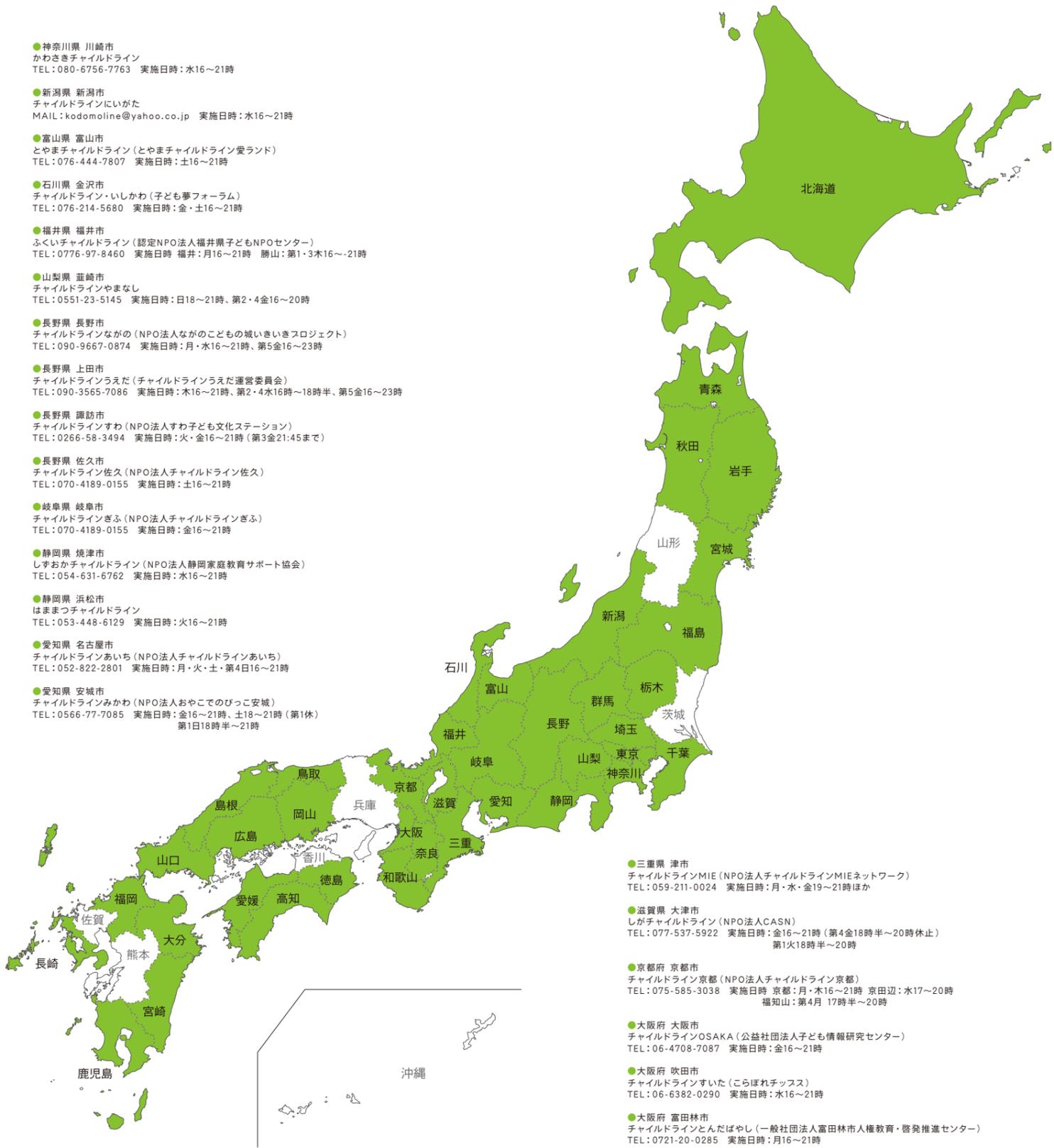
<ファンドレイズ>
 北田 桂子

<Special Thanks>
 Child Helpline International

全国各地のチャイルドライン

全国40都道府県70拠点で電話の受信をしています。

実施団体 40都道府県 70団体(2017年8月1日現在)



- 北海道 札幌市
チャイルドラインほっかいどう(認定NPO法人チャイルドラインほっかいどう)
TEL:011-272-3755 実施日時:月、水16~21時
- 青森県 青森市
チャイルドラインあおもり
FAX:017-782-0307
実施日時 青森:月4回16~20時 弘前:第1・3木16~20時 八戸:第2・3火、第4木16~19時
- 岩手県 盛岡市
チャイルドラインいわて
TEL:019-664-6061 実施日時:火16~21時
- 宮城県 仙台市
チャイルドラインみやぎ(NPO法人チャイルドラインみやぎ)
TEL:022-279-7210 実施日時:火16~21時
- 秋田県 秋田市
チャイルドラインあきた(NPO法人あきた子どもネット)
TEL:018-865-1161 実施日時:火16~20時
- 福島県 福島市
チャイルドラインふくしま
TEL:024-563-4191 実施日時:木16~21時
- 福島県 郡山市
チャイルドラインこおりやま
TEL:024-942-4036 実施日時:水16~21時
- 栃木県 宇都宮市
チャイルドラインとちぎ(認定NPO法人チャイルドラインとちぎ)
TEL:028-614-3253 実施日時:月、金16~21時(2・4金23時まで) 第3土、第2日16~21時
- 群馬県 前橋市
チャイルドラインぐんま
TEL:027-289-4365 実施日時:火16~21時
- 埼玉県 朝霞市
さいたまチャイルドライン(認定NPO法人さいたまチャイルドライン)
TEL:048-486-7171
実施日時:月~木16~21時 第1・3金16~23時 第2・4金、第1・3日16~18時半
- 千葉県 千葉市
チャイルドライン千葉(NPO法人子ども劇場千葉県センター)
TEL:043-301-7262
実施日時 千葉:月・水・木16~19時、火16~21時、第2・4土19~21時
野田:金16~21時、土16~19時 市川:第1・3日16~21時
- 東京都 港区
みなとチャイルドライン
TEL:070-6475-7210 実施日時:火18~20時 日17~20時
- 東京都 江東区
とうきょうかわのてチャイルドライン(NPO法人こうとう親子センター)
TEL:03-3634-4085 実施日時:金18~21時
- 東京都 品川区
しながわチャイルドライン(NPO法人しながわチャイルドライン)
TEL:03-5462-2868 実施日時:金16~21時、水19~21時半
- 東京都 目黒区
めぐろチャイルドライン(NPO法人めぐろチャイルドライン)
TEL:03-3513-7981 実施日時:火または水17~21時
- 東京都 世田谷区
せたがやチャイルドライン(社会福祉法人世田谷ボランティア協会)
TEL:03-5712-5101 実施日時:火~土16~21時
- 東京都 中野区
チャイルドライン 中野子ども電話(NPO法人中野ふくし倶楽部)
TEL:03-3384-5616 実施日時:土16~21時
- 東京都 杉並区
チャイルドラインすぎなみ
TEL:090-6012-3903 実施日時:日16~21時
- 東京都 八王子市
チャイルドライン八王子・子どものでんわ★21(NPO法人子どもネット“八王子”)
TEL:042-625-6909 実施日時:日16~19時、第1日18~21時
- 東京都 八王子市
八王子チャイルドライン「ココロ」(NPO法人八王子チャイルドライン「ココロ」)
MAIL:hachiouji@coocoro.net 実施日時:水18~21時、土15~18時
- 東京都 立川市
チャイルドラインたちかわ
FAX:042-531-5927 実施日時:日15~20時
- 東京都 武蔵野市
チャイルドラインむさしの(NPO法人チャイルドラインむさしの)
FAX:0422-51-4423 実施日時:火14~20時
- 東京都 狛江市
こまえチャイルドライン
TEL:03-3488-4264 実施日時:木16~21時
- 神奈川県 横浜市
よこはまチャイルドライン(NPO法人よこはまチャイルドライン)
TEL:045-342-0255 実施日時:月・水・木16~21時

- 神奈川県 川崎市
かわさきチャイルドライン
TEL:080-6756-7763 実施日時:水16~21時
- 新潟県 新潟市
チャイルドラインにいがた
MAIL:kodomoline@yahoo.co.jp 実施日時:水16~21時
- 富山県 富山市
とやまチャイルドライン(とやまチャイルドライン愛ランド)
TEL:076-444-7807 実施日時:土16~21時
- 石川県 金沢市
チャイルドライン・いしかわ(子ども夢フォーラム)
TEL:076-214-5680 実施日時:金・土16~21時
- 福井県 福井市
ふくいチャイルドライン(認定NPO法人福井県子どもNPOセンター)
TEL:0776-97-8460 実施日時 福井:月16~21時 勝山:第1・3木16~21時
- 山梨県 韮崎市
チャイルドラインやまなし
TEL:0551-23-5145 実施日時:日18~21時、第2・4金16~20時
- 長野県 長野市
チャイルドラインながの(NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト)
TEL:090-9667-0874 実施日時:月・水16~21時、第5金16~23時
- 長野県 上田市
チャイルドラインうえだ(チャイルドラインうえだ運営委員会)
TEL:090-3565-7086 実施日時:木16~21時、第2・4水16時~18時半、第5金16~23時
- 長野県 諏訪市
チャイルドラインすわ(NPO法人すわ子ども文化ステーション)
TEL:0266-58-3494 実施日時:火・金16~21時(第3金21:45まで)
- 長野県 佐久市
チャイルドライン佐久(NPO法人チャイルドライン佐久)
TEL:070-4189-0155 実施日時:土16~21時
- 岐阜県 岐阜市
チャイルドラインぎふ(NPO法人チャイルドラインぎふ)
TEL:070-4189-0155 実施日時:金16~21時
- 静岡県 焼津市
しずおかチャイルドライン(NPO法人静岡県家庭教育サポート協会)
TEL:054-631-6762 実施日時:水16~21時
- 静岡県 浜松市
はままつチャイルドライン
TEL:053-448-6129 実施日時:火16~21時
- 愛知県 名古屋市長
チャイルドラインあいち(NPO法人チャイルドラインあいち)
TEL:052-822-2801 実施日時:月・火・土・第4日16~21時
- 愛知県 安城市
チャイルドラインあま(愛知県おやこでのびっこ安城)
TEL:0566-77-7085 実施日時:金16~21時、土18~21時(第1休 第1日18時半~21時)
- 三重県 津市
チャイルドラインMIE(NPO法人チャイルドラインMIEネットワーク)
TEL:059-211-0024 実施日時:月・水・金19~21時ほか
- 滋賀県 大津市
しがチャイルドライン(NPO法人CASN)
TEL:077-537-5922 実施日時:金16~21時(第4金18時半~20時休止) 第1火18時半~20時
- 京都市 京都市
チャイルドライン京都(NPO法人チャイルドライン京都)
TEL:075-585-3038 実施日時 京都:月・木16~21時 京田辺:水17~20時 福知山:第4月 17時半~20時
- 大阪府 大阪市
チャイルドラインOSAKA(公益社団法人子ども情報研究センター)
TEL:06-4708-7087 実施日時:金16~21時
- 大阪府 吹田市
チャイルドラインすいた(こらぼれチッス)
TEL:06-6382-0290 実施日時:水16~21時
- 大阪府 富田林市
チャイルドラインとんだばやし(一般社団法人富田林市人権教育・啓発推進センター)
TEL:0721-20-0285 実施日時:月16~21時
- 大阪府 和泉市
チャイルドラインいずみ(いずみ子どもAID)
TEL:090-6730-9653 実施日時:水16時~20時半

- 東大阪市
チャイルドラインひがしおおさか
MAIL:childline.h@gmail.com 実施日時:土16~21時
- 阪南市
チャイルドラインはらっぱ(NPO法人子どもNPOはらっぱ)
TEL:072-471-2276 実施日時:火16~21時
- 奈良県 奈良市
チャイルドラインなら(社会福祉法人奈良いのちの電話協会)
TEL:0742-35-0500 実施日時:水16~21時
- 和歌山県 和歌山市
チャイルドラインわかやま(NPO法人子どもNPO和歌山県センター)
TEL:073-432-3664 実施日時:金16~21時
- 鳥取県 倉吉市
チャイルドラインうさぎのみ
TEL:090-6432-2967 実施日時:水16~21時+日
- 島根県 松江市
チャイルドラインしまね(NPO法人チャイルドラインしまね)
TEL:0852-24-9318 実施日時:第1~4土、第3火16~20時
- 岡山県 岡山市
チャイルドラインおかやま(NPO法人チャイルドラインおかやま)
TEL:086-233-1731 実施日時:月・土16~21時 十日 木16~19時
- 岡山県 笠岡市
チャイルドラインかさおか(認定NPOハーモニネット未来)
TEL:0865-63-4955 実施日時:水16~21時 十日
- 広島県 広島市
ひろしまチャイルドライン(認定NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション)
TEL:082-233-8655 実施日時:月・水・木・金・土16~21時 十日
- 広島県 福山市
チャイルドラインひんご(子どもサポネット「ハートフル」)
TEL:090-8712-1803 実施日時:第1・3月17~20時 第2・4土16~19時
- 山口県 宇部市
チャイルドラインやまぐち(NPO法人子ども劇場山口県センター)
TEL:0836-32-4287 実施日時:火16~21時
- 山口県 岩国市
チャイルドライン岩国ステーション
TEL:0827-28-5051 実施日時:水16~21時 十日
- 山口県 下関市
チャイルドラインしものせき
TEL:083-256-6888 実施日時:木16~21時
- 徳島県 徳島市
とくしまチャイルドライン
TEL:0884-28-0559 実施日時:第1水、第2金、第3土、第4日 16~21時
- 愛媛県 松山市
子ども電話「ひびき」(チャイルドライン ハートコール・えひめ)
TEL:089-923-9558 実施日時:5・10・15・20・25・30日 16~21時
- 高知県 高知市
チャイルドラインこうち
TEL:090-2788-9977 実施日時:木・第2・4火、第3土 17~20時
- 福岡県 北九州市
チャイルドライン北九州(NPO法人チャイルドライン北九州)
TEL:093-964-4152 実施日時:月16~21時
- 福岡県 福岡市
チャイルドライン「もしもしキモチ」(認定NPO法人チャイルドライン「もしもしキモチ」)
TEL:092-734-1540 実施日時:第1水16~23時、第2、4、5水18~23時
- 福岡県 福岡市
チャイルドライン@ふくおか(子どもの権利条約@ふくおか)
TEL:092-672-2769 実施日時:木18時半~21時、日16~21時
- 長崎県 長崎市
チャイルドライン・ながさき(NPO法人チャイルドラインながさき)
TEL:095-801-5521 実施日時:火・土17~20時
- 長崎県 佐世保市
チャイルドラインさせぼ
TEL:0956-24-0214 実施日時:月16~21時
- 大分県 大分市
チャイルドラインおおいた
TEL:090-3322-3699 実施日時:木16~21時
- 宮崎県 宮崎市
チャイルドラインみやざき(NPO法人チャイルドラインみやざき)
TEL:0985-41-8228 実施日時:土16~21時
- 鹿児島県 鹿児島市
チャイルドラインかこしま
TEL:080-2749-5523 実施日時:金16~21時

0120-99-7777 利用状況

種別	2016年度 (1日平均)	2015年度	前年比	
発信数	563,948件	605,833件	-41,885件	93.1%
着信数	209,243件	202,737件	6,506件	103.2%
着信率	37.1%	33.5%	3.6%	110.9%
かけた人数(のべ)	263,069人	260,743人	2,326人	100.9%
つながった率	79.5%	77.8%	1.8%	102.3%
平均通話時間	5分3秒	5分36秒	-33秒	102.8%
10分以上の通話	32,759件	35,371件	-2,612件	92.6%
着信数比	15.7%	17.4%	-1.8%	89.7%
総通話時間	17,423時間	18,921時間	-1,498時間	92.1%
総実施時間※	40,613時間	42,264時間	-1,652時間	96.1%
稼働率※	42.9%	44.8%	-1.9%	95.8%
時間着信数/回線※	5.2件	4.8件	0.4件	107.4%

(交換機上の通信データ、NTTコミュニケーションズのトラフィックデータ調査ツールにより取得。一日平均は2016年4月1日～2017年3月31日の359日で算出/12月29日～1月3日は休止。※はチャイルドライン支援センター調べ)

曜日別 実施体制/利用状況(1日平均)

曜日	団体数	最大時回線数	総実施時間数	かけた人数	着信数	あきらめた人数	つながった率	平均通話	総通話時間	稼働率
月曜日	16団体	29回線	141時間	859人	717件	141人	83.6%	4分36秒	55.0時間	38.9%
火曜日	17団体	24回線	107時間	707人	534件	172人	75.6%	5分42秒	50.7時間	47.2%
水曜日	19団体	30回線	139時間	874人	734件	140人	84.0%	5分9秒	63.1時間	45.4%
木曜日	16団体	22回線	104時間	726人	549件	178人	75.5%	5分29秒	50.1時間	48.3%
金曜日	17団体	26回線	129時間	809人	668件	142人	82.5%	5分6秒	56.7時間	44.0%
土曜日	16団体	23回線	106時間	759人	613件	146人	80.8%	4分34秒	46.7時間	43.9%
日曜日	9団体	12回線	52時間	308人	195件	114人	63.1%	4分57秒	16.0時間	30.8%

都道府県別

都道府県名	発信数	着信数	平均通話	総通話分	都道府県名	発信数	着信数	平均通話	総通話分	都道府県名	発信数	着信数	平均通話	総通話分
北海道	22,413件	8,725件	3分43秒	49,844分	山梨県	5,460件	1,574件	8分11秒	12,891分	島根県	2,166件	861件	6分23秒	5,493分
青森県	3,799件	1,650件	4分31秒	7,461分	愛知県	70,510件	25,344件	3分25秒	86,492分	鳥取県	2,945件	1,405件	4分25秒	6,205分
秋田県	3,289件	1,125件	13分54秒	15,636分	静岡県	16,315件	6,277件	6分11秒	38,796分	山口県	1,271件	424件	8分26秒	3,575分
岩手県	14,880件	7,410件	2分35秒	19,091分	岐阜県	6,287件	2,878件	5分53秒	16,924分	香川県	745件	287件	8分57秒	2,567分
宮城県	8,228件	3,389件	8分4秒	27,364分	三重県	11,883件	3,810件	2分22秒	8,995分	徳島県	2,184件	1,053件	3分51秒	3,881分
山形県	8,457件	3,439件	8分3秒	27,666分	富山県	5,966件	2,499件	5分28秒	13,681分	高知県	4,095件	1,974件	3分54秒	7,371分
福島県	9,013件	3,549件	5分47秒	20,541分	石川県	8,229件	3,874件	6分54秒	22,842分	愛媛県	1,267件	440件	11分18秒	4,972分
新潟県	4,518件	2,209件	4分52秒	10,752分	福井県	5,371件	2,269件	1分51秒	4,214分	福岡県	16,698件	4,199件	4分23秒	18,413分
長野県	6,455件	2,336件	7分7秒	16,609分	大阪府	37,537件	14,316件	5分17秒	75,564分	佐賀県	3,495件	879件	4分16秒	3,754分
群馬県	7,819件	3,983件	3分19秒	13,212分	京都府	5,860件	2,489件	8分1秒	19,947分	長崎県	10,233件	2,978件	4分50秒	14,371分
栃木県	4,771件	1,826件	7分16秒	13,263分	滋賀県	7,221件	2,810件	7分32秒	21,164分	熊本県	19,342件	4,360件	4分21秒	18,941分
茨城県	9,156件	3,848件	3分53秒	14,922分	奈良県	1,498件	493件	12分13秒	6,022分	大分県	4,622件	1,022件	5分13秒	5,330分
東京都	66,091件	20,329件	5分53秒	119,661分	和歌山県	9,629件	4,464件	2分8秒	9,489分	宮崎県	6,436件	1,365件	4分45秒	6,475分
神奈川県	30,039件	11,170件	6分10秒	68,902分	兵庫県	15,666件	6,421件	4分3秒	25,968分	鹿児島県	4,437件	1,236件	5分50秒	7,202分
千葉県	16,008件	4,783件	6分36秒	31,538分	岡山県	5,390件	2,065件	6分39秒	13,716分	沖縄県	1,411件	253件	10分46秒	2,726分
埼玉県	43,431件	20,101件	3分35秒	71,908分	広島県	11,412件	5,052件	5分27秒	27,528分	合計	563,948件	209,243件	5分03秒	1,058,116分

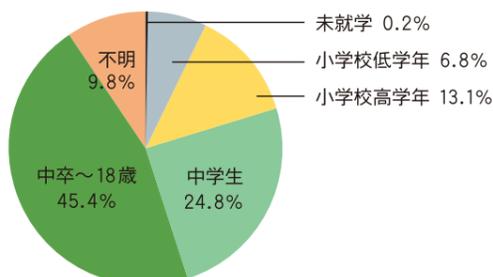
着信の内訳



※全国70団体が共通データベースに集積した統計データ。0120-99-7777のほか、直通電話やオンラインチャットの件数も含む。「会話不成立」はいたずら電話やコミュニケーションが成立しないもの、性的な目的でかけてきたものを分類。「大人」には内容等から大人と推測されるものも含む。

利用者の性別・年齢

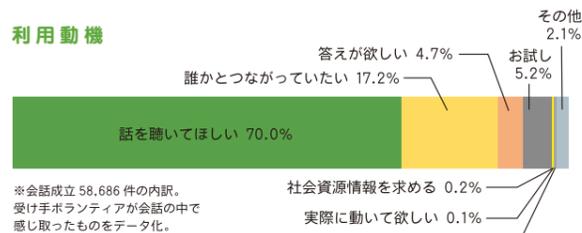
※会話成立58,686件の内訳



年齢	男子	女子	不明	全体
未就学	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%
小学校低学年	2.1%	4.5%	0.2%	6.8%
小学校高学年	4.2%	8.7%	0.2%	13.1%
中学生	13.4%	11.1%	0.3%	24.8%
中卒～18歳	28.2%	16.9%	0.4%	45.4%
不明	6.3%	2.8%	0.6%	9.8%
合計	54.3%	44.0%	1.7%	100.0%

内容

利用動機



※会話成立58,686件の内訳。受け手ボランティアが会話の中で感じ取ったものをデータ化。

男子	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	不明	合計
話を聞いてほしい	69.0%	59.7%	56.1%	65.8%	72.4%	59.2%	67.5%
答えが欲しい	17.2%	18.9%	20.5%	19.5%	16.1%	13.7%	17.1%
誰かとつながっていたい	1.7%	6.3%	3.4%	4.6%	4.5%	6.5%	4.7%
お試し	6.9%	12.7%	16.9%	7.3%	4.0%	11.0%	6.9%
社会資源情報を求める	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%
実際に動いて欲しい	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
チャイルドラインについて	0.0%	1.0%	0.7%	0.5%	0.4%	0.5%	0.5%
その他	5.2%	1.2%	2.2%	2.1%	2.3%	8.9%	3.0%

関係

※会話成立58,686件の内訳。

性別/関係性	全体	男子	女子	不明
友人・知人	21.4%	14.6%	29.7%	22.9%
恋人	3.4%	4.2%	2.4%	2.3%
先輩・後輩	1.1%	0.9%	1.3%	0.9%
同僚	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%
実父	1.9%	1.2%	2.7%	1.1%
実母	7.1%	7.2%	6.9%	6.7%
養父	0.2%	0.2%	0.2%	0.6%
養母	0.6%	0.9%	0.2%	0.4%
きょうだい	2.1%	2.5%	1.6%	1.9%
義理のきょうだい	0.4%	0.6%	0.1%	0.4%
祖父	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%
祖母	0.2%	0.2%	0.3%	0.0%
先生	3.7%	3.4%	4.0%	5.2%
顧問・指導者	0.7%	0.6%	0.8%	0.8%
近所の人	0.4%	0.6%	0.2%	0.1%
施設職員	0.1%	0.1%	0.1%	0.5%
知らない人	0.9%	1.0%	0.9%	1.5%
自分自身のこと	49.5%	54.8%	43.2%	42.8%
その他	5.9%	6.6%	4.9%	11.8%

気持ち

※会話成立58,686件の内訳。ティアが会話の中で感じ取ったものをデータ化。

性別	全体	男	女	不明
うれしい・たのしい	5.3%	5.0%	5.6%	5.6%
幸せ	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%
楽しみ・期待	1.9%	1.9%	1.9%	1.2%
満足・充実感	0.7%	0.8%	0.6%	0.6%
怒り・いらだち	4.1%	3.6%	4.8%	3.1%
憂鬱	3.5%	3.1%	4.0%	3.2%
不安	14.9%	15.9%	13.8%	13.0%
イヤだ	10.1%	8.3%	12.3%	8.6%
疲れ	1.1%	0.8%	1.4%	0.8%
あきらめ	0.8%	0.6%	1.0%	0.8%
つらい・苦しい	8.9%	6.3%	12.0%	10.4%
悲しい	2.2%	1.1%	3.4%	3.6%
孤独・寂しさ	3.6%	3.1%	4.2%	5.0%
人目が気になる	1.6%	1.8%	1.4%	1.0%
自分に自信がない	2.9%	2.8%	3.1%	1.4%
恐怖・怖い	1.7%	1.2%	2.3%	1.4%
くやしい	1.5%	1.5%	1.5%	0.7%
困惑・困っている	11.9%	13.5%	10.2%	8.1%
葛藤・迷い・戸惑い	7.3%	8.6%	5.8%	5.7%
傷つきたくない	0.6%	0.5%	0.8%	1.2%
傷つけない	0.4%	0.3%	0.4%	0.5%
不明	7.5%	10.0%	4.2%	12.1%
その他	7.0%	8.7%	4.9%	11.8%

全体	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	不明	合計
話を聞いてほしい	66.4%	64.3%	64.2%	69.6%	74.7%	60.6%	70.0%
答えが欲しい	13.0%	20.5%	21.8%	18.8%	15.2%	13.7%	17.2%
誰かとつながっていたい	3.8%	4.3%	2.9%	4.3%	4.9%	7.2%	4.7%
お試し	13.7%	8.6%	8.7%	4.9%	2.8%	9.5%	5.2%
社会資源情報を求める	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%
実際に動いて欲しい	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
チャイルドラインについて	0.0%	0.9%	0.9%	0.5%	0.4%	0.9%	0.5%
その他	3.1%	1.2%	1.4%	1.6%	1.8%	7.8%	2.2%

女子	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	不明	合計
話を聞いてほしい	67.2%	66.4%	68.1%	74.4%	78.5%	64.7%	73.3%
答えが欲しい	10.4%	21.4%	22.5%	18.0%	13.6%	13.9%	17.3%
誰かとつながっていたい	6.0%	3.4%	2.6%	3.8%	5.6%	8.2%	4.5%
お試し	14.9%	6.5%	4.7%	2.0%	0.8%	5.9%	2.8%
社会資源情報を求める	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%
実際に動いて欲しい	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%
チャイルドラインについて	0.0%	0.9%	0.9%	0.3%	0.3%	1.8%	0.6%
その他	1.5%	1.2%	0.9%	1.0%	0.8%	5.0%	1.2%

年齢/関係性	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	不明	合計
友人・知人	16.8%	39.4%	38.9%	23.2%	14.2%	14.3%	21.4%
恋人	0.0%	0.3%	0.7%	2.2%	5.4%	3.2%	3.4%
先輩・後輩	0.0%	0.7%	1.0%	1.3%	1.1%	0.5%	1.1%
同僚	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%	0.3%
実父	2.3%	1.2%	1.9%	2.1%	2.0%	1.2%	1.9%
実母	6.1%	4.6%	6.0%	8.0%	7.5%	5.9%	7.1%
養父	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%
養母	0.0%	0.					

主訴 ※会話成立 58,686 件の内訳。

主訴	全体	男子	女子	その他
人間関係	20.5%	12.7%	30.1%	29.7%
いじめ	6.1%	5.4%	6.9%	6.9%
セクハラ	0.7%	0.5%	0.9%	0.9%
パワハラ	0.5%	0.4%	0.6%	0.6%
体罰	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%
成績・勉強	3.2%	2.9%	3.6%	3.6%
中退	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
不登校	0.8%	0.5%	1.1%	1.1%
部活	1.0%	0.9%	1.0%	1.0%
虐待	2.6%	2.3%	3.0%	3.0%
家庭内暴力	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%
貧困	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%
両親の不仲について	0.4%	0.2%	0.7%	0.7%
家族との死別	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%
ネットトラブル	0.8%	0.6%	1.1%	1.1%
犯罪・暴力	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%
習い事	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
遊び	0.4%	0.3%	0.4%	0.4%
性的アイデンティティ	1.0%	1.5%	0.3%	0.3%
性被害	0.6%	0.7%	0.5%	0.5%
妊娠	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%
性感染症	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
性への興味関心等	14.1%	24.5%	1.4%	1.4%
心に関すること	9.5%	7.6%	11.9%	11.9%
自死(自殺)念慮	0.7%	0.3%	1.3%	1.3%
自傷行為	0.6%	0.0%	1.4%	1.4%
薬物乱用・依存	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
身体に関すること	4.7%	6.3%	2.8%	2.8%
性格のこと	1.0%	0.7%	1.3%	1.3%
容姿・体型のこと	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%
進路・生き方に関すること	3.3%	3.1%	3.5%	3.5%
恋愛	5.3%	5.7%	4.9%	4.9%
デートDV	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%
ひきこもり	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%
雑談	11.4%	12.5%	9.9%	9.9%
その他	8.0%	7.3%	8.4%	8.4%

人間関係

主訴	全体	男子	女子	その他
学校・フリースクール	13.5%	7.2%	21.3%	13.3%
部活	1.0%	0.6%	1.6%	0.8%
家庭	5.0%	4.3%	5.8%	5.8%
職場	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
インターネット	0.2%	0.1%	0.4%	0.4%
習い事	0.2%	0.1%	0.4%	0.4%
塾	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%
放課後の見守りの場	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

いじめ

主訴	全体	男子	女子	その他
学校・フリースクール	5.7%	5.1%	6.5%	6.5%
部活	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
インターネット	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%

セクハラ

主訴	全体	男子	女子	その他
学校・フリースクール	0.6%	0.4%	0.8%	0.8%
部活	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

パワハラ

主訴	全体	男子	女子	その他
学校・フリースクール	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%
部活	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

虐待

主訴	全体	男子	女子	その他
身体的	0.4%	0.3%	0.7%	0.7%
心理的	0.7%	0.5%	1.0%	1.0%
性的	1.0%	1.3%	0.7%	0.7%
ネグレクト	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%
教育虐待	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%

ネットトラブル

主訴	全体	男子	女子	その他
拡散	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%
出会い系	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
料金	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
依存	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
その他	0.3%	0.2%	0.4%	0.4%

心に関すること

主訴	全体	男子	女子	その他
気分の落ち込み	4.5%	3.2%	6.1%	6.1%
自信の無さ	1.9%	1.4%	2.5%	2.5%
退屈	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
恐怖	0.3%	0.2%	0.5%	0.5%
脅迫観念	0.3%	0.2%	0.5%	0.5%
過度な家族密着	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%
嗜癖	0.4%	0.6%	0.2%	0.2%
その他	1.7%	1.6%	1.8%	1.8%

深刻な主訴

主訴	男子	女子	不明	全体	前年度比
いじめ	1,734件	1,779件	72件	3,585件	-595件
加害	54件	63件	3件	120件	
傍観	84件	167件	5件	256件	
被害	1,596件	1,549件	64件	3,209件	
虐待	742件	769件	18件	1,529件	313件
身体的	81件	171件	4件	256件	
心理的	145件	263件	7件	415件	
性的	418件	168件	5件	591件	
ネグレクト	26件	77件	1件	104件	
教育虐待	72件	90件	1件	163件	
犯罪・暴力	120件	57件	3件	180件	-730件
家庭内暴力	70件	110件	2件	135件	
パワハラ	128件	152件	3件	283件	
セクハラ	173件	221件	74件	468件	
性被害	218件	139件	1件	358件	
デートDV	12件	57件	3件	72件	
加害	7件	9件	0件	16件	
被害	5件	48件	3件	56件	
体罰	129件	42件	1件	172件	1件
不登校	167件	294件	4件	465件	-180件
ひきこもり	49件	38件	2件	89件	-82件
自死(自殺)念慮	81件	330件	14件	425件	17件
自傷行為	15件	353件	3件	371件	-66件
薬物乱用・依存	12件	12件	0件	24件	-25件
ネットトラブル	184件	274件	7件	465件	23件
拡散	22件	47件	0件	69件	
出会い系	21件	27件	0件	48件	
料金	57件	69件	3件	129件	
依存	20件	26件	0件	46件	
その他	64件	105件	4件	173件	

データベースの仕様変更について 2016年度よりフォーマット形式を更新したため、新規に設けられた項目については前年度比が入っていません。

ご提供できる資料・報告書の一覧



(2016.3月発行)

- 災害時における子どものこころのケア
 - ～被災地からの子どもの声に応える
 - 第1章 子どもに耳を澄ます
 - ～非常時に、子どもたちが自分の不安を安心して伝えるようにするための手立てとしての「聴く」という手法
 - 第2章 震災後の居場所の役割
 - ～問いから始まる居場所づくり
 - 第3章 被災地の子どもに寄り添うために
 - ～トラウマケアとグリーフケアについて知る
 - 第4章 子どもを守るための地域での備え
 - ～平時の地域連携の在り方
 - 第5章 災害時のボランティアの心得
 - 第6章 災害時における子ども支援
 - ～子供の声が出す4つのポイント



- チャイルドライン全国フォーラム 2016in 福島 報告書
 - ～被災地の声に耳を澄ます～ 子どもたちは今



- チャイルド・ヘルスラインの電話相談実践ガイド



(2016.7月発行 在庫希少)

- 2016 チャイルドライン年次報告
 - <主な内容>
 - ・2015年度の電話の状況、電話内容、子どもの声
 - ・特集1 公開講座 子ども・若者のためのオンライン相談
 - ・特集2 チャイルドライン子ども会議
 - ・特集3 CHI 2016年から2020年までの戦略
 - ・2015年度の活動概要



(2016.3月発行)

- 子どもの声の分析プロジェクト報告書
 - ～自己肯定感が育ちにくい今の社会を子どもの声から考える



(2015.3月発行)

- 東日本大震災 子どもたちへの影響
 - ～チャイルドラインに寄せられた子どもの声の記録から



- 活動紹介リーフレット (B4、2つ折り、両面カラー)

- キャラクタークリアファイル (クリアホルダー)

※在庫状況、資料提供にかかる費用については事務局までお問合せください。



2017 チャイルドライン年次報告

CHILDLINE ANNUAL REPORT

発行日：2017年8月25日 第1版 第1刷発行

発行人：神 仁

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2A

TEL:03-5312-1886 FAX:03-5312-1887

E-mail: info@childline.or.jp URL: <http://www.childline.or.jp>

表紙・DTPレイアウト：イノウデザイン株式会社

印刷製本：株式会社三門印刷所

※無断で複製・転載することを禁じます

※「チャイルドライン」および「チャイルドライン・キャラクター」は特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターの登録商標です。



公益財団法人JKA

競輪補助事業

<http://hojo.keirin-autorace.or.jp/>